

# I. 2019年度決算の概況

## 1. 主要業績

### (1) 年換算保険料

#### ア. 保有契約

(単位：億円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
① 個人保険	16,162	102.2	16,062	99.4
② 個人年金保険	6,493	97.0	6,205	95.6
計 (①+②)	22,656	100.6	22,267	98.3
うち医療保障・生前給付保障等	4,320	107.5	4,452	103.1

#### イ. 新契約

(単位：億円、%)

区 分	2018年度		2019年度	
	金額	前年度比	金額	前年度比
① 個人保険	1,381	113.0	1,029	74.6
② 個人年金保険	32	56.2	21	67.4
計 (①+②)	1,413	110.4	1,051	74.4
うち医療保障・生前給付保障等	543	126.9	399	73.5

(注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

2. 「うち医療保障・生前給付保障等」には、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

3. 新契約には、転換および保障見直し・特約変更による純増加の金額を含んでいます。

### (2) 保有契約高および新契約高

#### ア. 保有契約高

(単位：億円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
① 個人保険	613,583	95.0	582,139	94.9
② 個人年金保険	134,065	96.0	128,536	95.9
計 (①+②)	747,648	95.2	710,676	95.1
③ 団体保険	1,158,156	101.6	1,163,348	100.4
④ 団体年金保険	76,913	101.1	77,864	101.2

(注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。

2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

#### イ. 保有契約件数

(単位：千件、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	件数	前年度末比	件数	前年度末比
① 個人保険	9,751	102.8	9,925	101.8
② 個人年金保険	2,533	96.9	2,438	96.3
計 (①+②)	12,284	101.6	12,363	100.6

## ウ. 新契約高

(単位：億円、%)

区 分	2018年度				2019年度			
	金額			前年度比	金額			前年度比
	新契約	転換による 純増加	前年度比		新契約	転換による 純増加	前年度比	
① 個人保険	13,334	21,950	△ 8,615	92.8	10,647	18,718	△ 8,070	79.8
② 個人年金保険	936	939	△ 2	57.4	619	620	△ 1	66.1
計 (①+②)	14,271	22,890	△ 8,618	89.2	11,267	19,339	△ 8,072	78.9
③ 団体保険	7,093	7,093		31.2	4,641	4,641		65.4
④ 団体年金保険	0	0		81.0	0	0		71.9

- (注) 1. 「転換による純増加」には、保障見直し・特約変更による純増加の金額を含んでいます。  
 2. 新契約・転換による純増加の個人年金保険の金額は、年金支払開始時における年金原資です。  
 3. 新契約の団体年金保険の金額は第1回収入保険料です。

## エ. 新契約件数

(単位：千件、%)

区 分	2018年度		2019年度	
	件数	前年度比	件数	前年度比
① 個人保険	1,138	102.4	1,154	101.3
② 個人年金保険	19	61.0	12	65.7
計 (①+②)	1,158	101.3	1,166	100.7

(注) 新契約に転換後契約および保障見直し・特約変更後契約を加えた数値です。

## (3) 主要収支項目

(単位：億円、%)

区 分	2018年度		2019年度	
	金額	前年度比	金額	前年度比
保険料等収入	27,708	101.9	25,933	93.6
資産運用収益	9,118	102.4	9,810	107.6
保険金等支払金	22,054	99.7	22,934	104.0
資産運用費用	2,271	109.6	3,584	157.8
経常利益	3,735	101.4	2,354	63.0

## (4) 剰余金処分

(単位：億円、%)

区 分	2018年度		2019年度	
	金額	前年度比	金額	前年度比
当期末処分剰余金	2,233	93.2	2,001	89.6
社員配当準備金繰入額	1,696	91.3	1,488	87.8
純剰余金	543	99.8	518	95.4
うち基金償却準備金	520	100.0	500	96.2

## (5) 総資産

(単位：億円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金額	前年度末比	金額	前年度末比
総資産	392,608	101.8	395,308	100.7

## (6) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(注) 会計基準の選択に関する基本的な考え方  
 当社は、日本基準に基づき財務諸表を作成しております。

## 2. 2019年度末保障機能別保有契約高

(単位：千件、億円)

項 目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合 計	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
死亡保障	普通死亡	8,659	570,658	—	34	29,335	1,162,265	37,995	1,732,959
	災害死亡	4,405	98,688	275	1,166	2,949	59,718	7,630	159,574
	その他の条件付死亡	0	6	—	—	69	414	69	420
生存保障		1,265	11,481	2,438	128,501	18	1,082	3,722	141,066
入院保障	災害入院	6,386	363	107	5	1,581	39	8,075	407
	疾病入院	6,324	360	106	5	—	—	6,431	366
	その他の条件付入院	3,097	242	37	9	57	0	3,192	253
障害保障		3,423	—	20	—	3,247	—	6,690	—
手術保障		8,227	—	101	—	—	—	8,329	—

項 目	団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
生存保障	11,695	77,864	83	2,109	11,778	79,974

項 目	医療保障保険	
	件 数	金 額
入院保障	1,064	31

項 目	就業不能保障保険	
	件 数	金 額
就業不能保障	111	71

- (注) 1. 団体保険、団体年金保険、財形保険・財形年金保険、医療保障保険（団体型）および就業不能保障保険の件数は被保険者数を表わします。
2. 生存保障欄の金額は、個人年金保険、団体保険（年金特約）および財形年金保険（財形年金積立保険を除く）については、年金支払前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したもの、団体年金保険、財形保険および財形年金積立保険については責任準備金を表わします。
3. 入院保障欄の額は入院給付金日額を表わします。
4. 医療保障保険の入院保障欄には、疾病入院に関わる数値を記載しています。
5. 就業不能保障保険の金額は就業不能保障額（月額）を表わします。

### 3. 2019年度決算に基づく社員配当金例示

#### (1) 2019年度決算に基づく2020年度支払配当率の考え方

##### 【個人保険・個人年金保険】

- ・ 日常生活制限状態を保障する生活サポート終身年金特約等について危険差配当率を引き上げ。その他の配当率はすえ置き

##### 【団体保険】

- ・ 保険収支の状況等を勘案し、配当率をすえ置き

##### 【団体年金保険】

- ・ 新型コロナウイルスの影響による急激な市場環境の悪化を受けて、団体年金資産区分の利回りの水準が低下し、将来の予定利率を確保するためのリスクバッファが減少したことから、利差配当率をゼロに引き下げ

#### (2) 支払配当率の概要

2019年度決算に基づく2020年度支払配当率の概要は以下のとおりです。

##### ア. 個人保険・個人年金保険（毎年配当タイプ）

###### ① 通常配当

主契約および特約ごとに次のaからcの合計額。ただし、契約ごとの合計額が負値の場合はこれを0とします。ただし、旧安田生命保険相互会社契約の新・養老保険の主契約部分で保険金が500万円未満の平準払契約については0とします。また、新養老保険、保障付積立保険ドリームプランおよび1998年4月2日以降締結の個人年金保険のうち一時払契約については、特約を含めて0とします

###### a. 利差配当

予定利率や保険種類等に応じ、配当率を設定

[例示]（平準払）

- ・ 予定利率2%以下の主契約、特約 : 1.85%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率2%超3%以下の主契約、特約 : 1.65%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率3%超4%以下の主契約、特約 : 1.50%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率4%超の主契約、特約 : 1.15%（配当基準利回り）－ 予定利率

[例示]（一時払の終身保険パイオニアおよび新・終身保険）

- ・ 予定利率2%以下の契約 : 0.05%（利差配当率）

###### b. 危険差配当

契約日や年齢等に応じ、配当率を設定

###### c. 費差配当

契約日や保険金額等に応じ、配当率を設定

###### ② 消滅時特別配当

一部の長期継続契約を除き0

##### イ. 個人保険・個人年金保険（3年ごと利差配当タイプ）

2020年度の割り振り額は①と②を合算したもの

###### ① 利差配当

予定利率や保険種類等に応じ、配当率を設定

[例示]（平準払）

- ・ 予定利率1.5%の主契約（アカウント） : 1.70%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率1.0%の主契約（アカウント） : 1.15%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率2%以下の特約 : 1.85%（配当基準利回り）－ 予定利率
- ・ 予定利率2%超の特約 : 1.65%（配当基準利回り）－ 予定利率

② ハートフル配当

以下の特約について、年齢・性別・経過等に応じ、配当率を設定

[例示] (ハートフル配当の割り振り対象となる特約の例示)

- ・定期保険特約、遺族サポート特約、特定疾病保障定期保険特約、6大疾病保障定期保険特約、重度障害保障定期保険特約、介護保障定期保険特約、生活サポート特約(年金開始前)、生活サポート終身年金特約(年金開始前)、新・入院特約等の特約
- ・2011年10月1日以前に締結した、入院特約、3大疾病無制限入院特約、入院保障特約(A)・(B)・(C)等の特約

ウ. 個人保険・個人年金保険(5年ごと利差配当タイプ)

2020年度の割り振り額は①と②を合算したもの。ただし、新生存給付金付定期保険特約付5年ごと利差配当付養老保険ハッピーバルーンについては特約も含めて0とします。また、こども保険(2012)明治安田の学資のほけんについては0とします

① 利差配当

予定利率や保険種類等に応じ、配当率を設定

[例示] (平準払(除く個人年金保険(2011)))

- ・予定利率2%以下の主契約、特約 : 1.85%(配当基準利回り) - 予定利率
- ・予定利率2%超の主契約、特約 : 1.65%(配当基準利回り) - 予定利率

[例示] (一時払の終身保険パイオニアE)

- ・1999年4月2日以後、2015年7月1日以前のご契約: 0.05%(利差配当率)
- ・2015年7月2日以後のご契約 : 0%(利差配当率)

② ハートフル配当

以下の保険種類・特約について、年齢・性別・経過等に応じ、配当率を設定

[例示] (ハートフル配当の割り振りの対象となる保険種類・特約の例示)

- ・終身保険、定期保険、定期保険特約、特定疾病保障定期保険特約、重度障害保障定期保険特約、入院保険等の主契約、特約
- ・2011年10月1日以前に締結した、医療保険、入院特約、入院保障特約(A)・(B)・(C)等の主契約、特約

エ. 個人保険(5年ごと配当タイプ)

2020年度の割り振り額は①と②を合算したもの

① 利差配当

予定利率や保険種類等に応じ、配当率を設定

[例示] (平準払)

- ・主契約、特約 : 1.85%(配当基準利回り) - 予定利率

② 危険差配当

年齢・性別等に応じ、配当率を設定

オ. 団体保険

団体の規模や保険種類等に応じ、配当率を設定

[例示]

総合福祉団体定期保険: 危険差益に14%から98.7%までの配当率を乗じた額

カ. 団体年金保険

利差配当

ゼロ

(3) 社員配当金の例示

2019年度決算に基づく「組立総合保障保険（5年ごと配当タイプ）」、「終身保険（5年ごと利差配当タイプ）」および「個人年金保険（5年ごと利差配当タイプ）」について、社員配当金の例示は次のとおりです

[例1] 組立総合保障保険（ベストスタイル 10年更新型）の場合

- 40歳加入・全期掛・男性・月掛（口座振替料率）
- 死亡保険金 1,240万円（生活サポート終身年金特約 240万円、定期保険特約 1,000万円）
- 入院給付金日額 5,000円（新・入院特約）

<5年ごと配当タイプ> (単位：円)

契約年度 (経過年数)	保険料 (年換算)	継続中の契約 [割り振り額]	継続中の契約 [配当金] (注1)	死亡契約 (注2) [保険金+配当金]
2015年度 (5年)	144,240	8,450	23,077	12,423,077

(注1) 5年ごとの契約応当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

(注2) 契約応当日直後の死亡の場合の金額（積立配当金を含む）です（以下、[例2]～[例4]において同じ）。

[例2] 終身保険（終身保険パイオニアE、平準払）の場合

- 50歳加入・70歳払込満了・男性・月掛（口座振替料率）
- 死亡保険金 1,000万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位：円)

契約年度 (経過年数)	保険料 (年換算)	継続中の契約 [割り振り額]	継続中の契約 [配当金] (注3)	死亡契約 [保険金+配当金]
2015年度 (5年)	482,880	11,300	30,703	10,030,703
2010年度 (10年)	453,720	10,300	36,206	10,043,018

(注3) 5年ごとの契約応当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

[例3] 終身保険（終身保険パイオニアE、一時払）の場合

- 60歳加入・男性・一時払
- 死亡保険金 500万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位：円)

契約年度 (経過年数)	保険料 (一時払)	継続中の契約 [割り振り額]	継続中の契約 [配当金] (注4)	死亡契約 [保険金+配当金]
2015年度 (5年)	4,331,100	4,150	16,452	5,016,452
2010年度 (10年)	3,922,750	4,050	15,552	5,019,555

(注4) 5年ごとの契約応当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

[例4] 個人年金保険（年金かけはし）の場合

- 40歳加入・60歳年金開始・10年確定年金・男性・月掛（口座振替料率）
- 月掛保険料 2万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位：円)

契約年度 (経過年数)	保険料 (年換算)	継続中の契約 [割り振り額]	継続中の契約 [配当金] (注5)	死亡契約 (注6) [保険金+配当金]
2015年度 (5年)	240,000	5,622	15,502	15,502

(注5) 5年ごとの契約応当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

(注6) 表中に記載の金額の他に、死亡時には、既払込保険料相当額を死亡給付金としてお支払いいたします。

前記配当金額は以下のとおりです。

< 5年ごと配当タイプ >

5年ごと配当タイプにおいては、毎年、通常配当の割り振りを行ない、5年ごとに割り振り累計額をお支払いいたします。割り振り累計額が負値の場合、支払配当金は0となります。

< 5年ごと利差配当タイプ >

5年ごと利差配当タイプにおいては、毎年、利差配当、ハートフル配当の割り振りを行ない、5年ごとに割り振り累計額をお支払いいたします。割り振り累計額が負値の場合、支払配当金は0となります。

(ご参考) 社員配当金例表 (前年度決算における配当率との比較)

《組立総合保障保険 (ベストスタイル 10年更新型)》

- 40歳加入・全期掛・男性・月掛 (口座振替料率)
- 死亡保険金 1,240万円 (生活サポート終身年金特約 240万円、定期保険特約 1,000万円)
- 入院給付金日額 5,000円 (新・入院特約)

<5年ごと配当タイプ> (単位:円)

契約年度	保険料 (年換算)	①本年度 支払額 (注1)	②前年度配当率 による金額 (注1、2)
2015年度	144,240	(経過5年) 23,077	(経過5年) 21,397

(注1) 5年ごとの契約当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

(注2) 前年度決算に基づく配当率を用いて2020年度の割り振り額を計算した場合の金額です (以下、各例示における「②前年度配当率による金額」欄において同じ)。

《終身保険 (終身保険パイオニアE、平準払)》

- 50歳加入・70歳払込満了・男性・月掛 (口座振替料率)
- 死亡保険金 1,000万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位:円)

契約年度	保険料 (年換算)	①本年度 支払額 (注3)	②前年度配当率 による金額 (注3)
2015年度	482,880	(経過5年) 30,703	(経過5年) 30,703
2010年度	453,720	(経過10年) 36,206	(経過10年) 36,206

(注3) 5年ごとの契約当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

《終身保険 (終身保険パイオニアE、一時払)》

- 60歳加入・男性・一時払
- 死亡保険金 500万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位:円)

契約年度	保険料 (一時払)	①本年度 支払額 (注4)	②前年度配当率 による金額 (注4)
2015年度	4,331,100	(経過5年) 16,452	(経過5年) 16,452
2010年度	3,922,750	(経過10年) 15,552	(経過10年) 15,552

(注4) 5年ごとの契約当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

《個人年金保険 (年金かけはし)》

- 40歳加入・60歳年金開始・10年確定年金・男性・月掛 (口座振替料率)
- 月掛保険料 2万円

<5年ごと利差配当タイプ> (単位:円)

契約年度	保険料 (年換算)	①本年度 支払額 (注5)	②前年度配当率 による金額 (注5)
2015年度	240,000	(経過5年) 15,502	(経過5年) 15,502

(注5) 5年ごとの契約当日に、5年間の割り振り額の累計額をお支払いいたします。

## 4. 2019年度の一般勘定資産の運用状況

### (1) 運用環境

2019年度の日本経済は、「国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」等によって公共投資が増加しましたが、米中摩擦によって輸出が弱含んで推移したほか、年明け以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大から個人消費も落ち込み、減速しました。長期金利は、年度を通して米中交渉の動向や地政学リスクなどから上下に振れる展開となり、年度末には、新型コロナウイルス肺炎の世界的な感染拡大による先行き不透明感の高まりから現金化する動きがでてきたことで、上昇して終えました。

### (2) 当社の運用方針

資産運用につきましては、

①資産区分ごとの負債特性、内部留保（リスクバッファー）、必要収支、保険商品・販売戦略等をふまえたALM運用の推進

②資産運用リスク管理機能のいっそうの高度化および安定収益資産を中心に据えた運用の継続、価格変動リスクの抑制による資産健全性の維持・向上

③ALM運用に準拠した適切なリスク認識を前提とした良好な運用成果の長期安定的な確保等に取り組むことにより、お客さまに信頼される資産運用を実施することを基本方針としています。

### (3) 運用実績の概況

#### ア. 資産配分

ALM運用を基本としつつ、国内で超低金利環境が継続するなかでも高位安定的な収益を確保する観点から、内外金利差や為替動向に留意したうえで、市場環境に応じた効果的な資産配分を行いました。具体的には、外国公社債を中心に投資を行ない、また、収益力向上の観点から、国内外企業が発行する社債等、クレジット資産を積み増しました。

2019年度末の一般勘定資産残高は、前年度末から2,836億円増加し、38兆7,344億円となりました。主な資産配分は、以下のとおりです。

公社債につきましては、新規投資が償還を上回ったことにより、前年度末から3,214億円の増加となりました。株式につきましては、株価の下落等により、前年度末から6,881億円の減少となりました。外国証券につきましては、外国公社債の積み増し等により、前年度末から6,380億円の増加となりました。貸付金につきましては、返済が貸出を上回ったことにより、前年度末から1,183億円の減少となりました。不動産につきましては、減価償却等により前年度末から53億円の減少となりました。

#### イ. 資産運用収支

資産運用収益は、利息及び配当金等収入の増加等により、前年度比108.0%の9,810億円となりました。一方、資産運用費用は、有価証券評価損の増加等により、前年度比149.0%の3,384億円となりました。以上により、資産運用収支は、前年度比94.4%の6,425億円となりました。

## (4) 資産運用の実績(一般勘定)

## ア. 資産の構成

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	1,213,857	3.2	1,273,366	3.3
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	212,307	0.6	204,335	0.5
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	16,669	0.0	13,966	0.0
有価証券	31,406,617	81.7	31,697,210	81.8
公 社 債	16,887,605	43.9	17,209,032	44.4
株 式	4,135,309	10.8	3,447,155	8.9
外 国 証 券	9,530,906	24.8	10,168,944	26.3
公 社 債	7,562,054	19.7	8,513,065	22.0
株 式 等	1,968,851	5.1	1,655,879	4.3
その他の証券	852,795	2.2	872,076	2.3
貸付金	4,223,805	11.0	4,105,435	10.6
保険約款貸付	239,335	0.6	229,759	0.6
一般貸付	3,984,470	10.4	3,875,676	10.0
不動産	866,343	2.3	860,958	2.2
繰延税金資産	—	—	—	—
その他	516,478	1.3	585,883	1.5
貸倒引当金	△5,361	△0.0	△6,754	△0.0
合 計	38,450,719	100.0	38,734,402	100.0
うち外貨建資産	9,556,503	24.9	10,605,449	27.4

(注) 不動産については、土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

## イ. 資産の増減

(単位:百万円)

区 分	2018年度	2019年度
現預金・コールローン	660,476	59,509
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△2,423	△7,972
商品有価証券	—	—
金銭の信託	6,592	△2,702
有価証券	409,888	290,592
公 社 債	△130,680	321,427
株 式	△328,785	△688,154
外 国 証 券	689,160	638,038
公 社 債	733,290	951,010
株 式 等	△44,130	△312,972
その他の証券	180,194	19,281
貸付金	△283,564	△118,370
保険約款貸付	△9,925	△9,575
一般貸付	△273,639	△108,794
不動産	△2,555	△5,384
繰延税金資産	—	—
その他	△41,724	69,404
貸倒引当金	△260	△1,392
合 計	746,429	283,683
うち外貨建資産	1,032,149	1,048,945

(注) 不動産については、土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

ウ. 資産運用収益

(単位:百万円)

区 分	2018年度	2019年度
利息及び配当金等収入	807,260	871,621
預貯金利息	999	1,893
有価証券利息・配当金	677,845	746,415
貸付金利息	74,234	67,105
不動産賃貸料	37,991	38,805
その他利息配当金	16,190	17,399
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	46
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	15,762	19,233
国債等債券売却益	1,705	9,928
株式等売却益	3,287	4,388
外国証券売却益	10,769	4,916
その他の	—	—
有価証券償還益	76,650	89,915
金融派生商品収益	—	—
為替差益	8,185	—
貸倒引当金戻入額	—	—
その他運用収益	125	255
合 計	907,985	981,072

エ. 資産運用費用

(単位:百万円)

区 分	2018年度	2019年度
支払利息	12,572	14,262
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	184	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	37,527	6,295
国債等債券売却損	78	553
株式等売却損	488	205
外国証券売却損	36,960	5,536
その他の	—	—
有価証券評価損	17,708	104,134
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	11,361	72,590
外国証券評価損	6,142	30,432
その他の	204	1,111
有価証券償還損	4,983	32,134
金融派生商品費用	130,169	135,662
為替差損	—	18,188
貸倒引当金繰入額	341	1,503
貸付金償却	—	393
賃貸用不動産等減価償却費	9,516	9,609
その他運用費用	14,132	16,292
合 計	227,135	338,476

オ. 資産運用に係わる諸効率

①資産別運用利回り

(単位:%)

区 分	2018年度	2019年度
現預金・コールローン	0.09	0.01
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	1.60	1.54
商品有価証券	—	—
金銭の信託	△1.28	0.23
有価証券	2.10	2.01
うち 公社債	1.61	1.63
うち 株式	5.50	2.89
うち 外国証券	2.32	2.57
公社債	2.27	2.01
株式等	2.51	5.04
貸付金	1.67	1.54
うち 一般貸付	1.52	1.39
不動産	2.15	2.03
合 計	1.92	1.78
うち 海外投融資	2.26	2.45

- (注) 1. 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中の資産運用収支(資産運用収益－資産運用費用)として算出した利回りです。  
2. 海外投融資には、円建資産を含んでいます。

【ご参考】主要資産の平均残高

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度		2019年度	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	896,952	2.5	1,052,790	2.9
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	214,006	0.6	206,653	0.6
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	14,949	0.0	17,864	0.0
有価証券	27,934,549	78.7	28,675,220	79.3
うち 公社債	16,652,607	46.9	16,565,393	45.8
うち 株式	1,807,782	5.1	1,773,035	4.9
うち 外国証券	8,783,361	24.7	9,480,034	26.2
公社債	6,944,499	19.6	7,740,798	21.4
株式等	1,838,861	5.2	1,739,236	4.8
貸付金	4,409,073	12.4	4,146,497	11.5
うち 一般貸付	4,164,432	11.7	3,912,777	10.8
不動産	872,772	2.5	871,073	2.4
合 計	35,508,071	100.0	36,176,620	100.0
うち 海外投融資	9,493,352	26.7	10,347,349	28.6

- (注) 1. 平均残高は帳簿価額ベースで算出しています。  
2. 海外投融資には、円建資産を含んでいます。

②売買目的有価証券の評価損益

2018年度末および2019年度末とも売買目的有価証券の保有はなく、評価損益は計上していません。

③有価証券の時価情報

(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

(単位:百万円)

区 分	2018年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差損益	
				差益	差損
満期保有目的の債券	4,336,078	5,170,501	834,422	834,499	△76
責任準備金対応債券	8,057,811	9,713,518	1,655,706	1,656,309	△603
子会社株式及び関連会社株式	—	—	—	—	—
その他の有価証券	14,696,852	18,097,473	3,400,621	3,486,452	△85,830
公 社 債	4,888,700	5,325,598	436,897	437,153	△255
株 式	1,674,228	4,009,367	2,335,139	2,357,708	△22,569
外 国 証 券	7,293,609	7,870,746	577,137	628,368	△51,231
公 社 債	6,502,084	6,928,152	426,067	470,907	△44,840
株 式 等	791,524	942,594	151,069	157,461	△6,391
その他の証券	775,212	826,765	51,552	62,130	△10,578
買入金銭債権	13,236	14,327	1,090	1,090	—
譲渡性預金	34,000	33,998	△1	0	△1
金銭の信託	17,864	16,669	△1,194	—	△1,194
合 計	27,090,742	32,981,493	5,890,750	5,977,261	△86,510
公 社 債	16,450,708	19,341,072	2,890,364	2,890,621	△256
株 式	1,674,228	4,009,367	2,335,139	2,357,708	△22,569
外 国 証 券	7,927,511	8,528,002	600,490	652,400	△51,910
公 社 債	7,135,987	7,585,407	449,420	494,939	△45,518
株 式 等	791,524	942,594	151,069	157,461	△6,391
その他の証券	775,212	826,765	51,552	62,130	△10,578
買入金銭債権	211,216	225,616	14,400	14,400	—
譲渡性預金	34,000	33,998	△1	0	△1
金銭の信託	17,864	16,669	△1,194	—	△1,194

(単位:百万円)

区 分	2019年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差損益	
				差益	差損
満期保有目的の債券	4,135,333	4,882,136	746,803	747,035	△232
責任準備金対応債券	8,923,833	10,532,331	1,608,498	1,620,716	△12,218
子会社株式及び関連会社株式	—	—	—	—	—
その他の有価証券	15,288,346	17,996,179	2,707,833	2,850,425	△142,591
公 社 債	4,872,059	5,232,993	360,934	364,394	△3,460
株 式	1,598,539	3,354,683	1,756,144	1,803,462	△47,317
外 国 証 券	7,920,182	8,505,333	585,150	646,961	△61,810
公 社 債	7,083,149	7,622,208	539,058	567,541	△28,483
株 式 等	837,033	883,125	46,091	79,419	△33,327
その他の証券	835,520	844,140	8,620	34,726	△26,106
買入金銭債権	11,184	12,064	880	880	—
譲渡性預金	33,000	32,995	△4	0	△4
金銭の信託	17,859	13,966	△3,892	—	△3,892
合 計	28,347,512	33,410,647	5,063,135	5,218,177	△155,042
公 社 債	16,848,098	19,480,539	2,632,441	2,644,645	△12,203
株 式	1,598,539	3,354,683	1,756,144	1,803,462	△47,317
外 国 証 券	8,811,040	9,466,805	655,765	721,284	△65,518
公 社 債	7,974,006	8,583,680	609,673	641,864	△32,190
株 式 等	837,033	883,125	46,091	79,419	△33,327
その他の証券	835,520	844,140	8,620	34,726	△26,106
買入金銭債権	203,455	217,514	14,059	14,059	—
譲渡性預金	33,000	32,995	△4	0	△4
金銭の信託	17,859	13,966	△3,892	—	△3,892

(注) 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

a. 満期保有目的の債券

(単位:百万円)

区 分	2018年度末			2019年度末		
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	4,328,278	5,162,778	834,499	4,124,533	4,871,569	747,035
公 社 債	4,030,348	4,845,025	814,676	3,835,912	4,564,012	728,099
外 国 証 券	99,949	106,462	6,512	96,349	102,106	5,756
買 入 金 銭 債 権	197,980	211,289	13,309	192,270	205,449	13,179
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	7,800	7,723	△76	10,800	10,567	△232
公 社 債	2,800	2,798	△1	2,800	2,798	△1
外 国 証 券	5,000	4,924	△75	8,000	7,768	△231
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—	—	—

b. 責任準備金対応債券

(単位:百万円)

区 分	2018年度末			2019年度末		
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	8,017,082	9,673,392	1,656,309	8,170,256	9,790,973	1,620,716
公 社 債	7,528,858	9,167,649	1,638,791	7,492,090	9,044,241	1,552,150
外 国 証 券	488,223	505,742	17,518	678,166	746,731	68,565
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	40,728	40,125	△603	753,576	741,358	△12,218
公 社 債	—	—	—	645,235	636,493	△8,741
外 国 証 券	40,728	40,125	△603	108,340	104,864	△3,476

c. その他有価証券

(単位:百万円)

区 分	2018年度末			2019年度末		
	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額	帳簿価額	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えるもの	12,077,294	15,563,746	3,486,452	13,292,127	16,142,552	2,850,425
公 社 債	4,839,378	5,276,532	437,153	4,655,016	5,019,411	364,394
株 式	1,478,135	3,835,843	2,357,708	1,188,129	2,991,591	1,803,462
外 国 証 券	5,222,294	5,850,663	628,368	6,857,142	7,504,104	646,961
そ の 他 の 証 券	509,250	571,381	62,130	577,654	612,381	34,726
買 入 金 銭 債 権	13,236	14,327	1,090	11,184	12,064	880
譲 渡 性 預 金	15,000	15,000	0	3,000	3,000	0
金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—	—
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えないもの	2,619,557	2,533,726	△85,830	1,996,218	1,853,626	△142,591
公 社 債	49,321	49,065	△255	217,042	213,582	△3,460
株 式	196,093	173,524	△22,569	410,410	363,092	△47,317
外 国 証 券	2,071,315	2,020,083	△51,231	1,063,040	1,001,229	△61,810
そ の 他 の 証 券	265,962	255,384	△10,578	257,866	231,759	△26,106
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—	—	—
譲 渡 性 預 金	19,000	18,998	△1	30,000	29,995	△4
金 銭 の 信 託	17,864	16,669	△1,194	17,859	13,966	△3,892

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位:百万円)

区 分	2018年度末	2019年度末
満期保有目的の債券	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社株式及び関連会社株式	881,663	847,921
その他の有価証券	295,993	45,098
非上場国内株式	27,452	27,725
非上場外国株式	257,126	4,126
その他の外国証券	596	531
その他の	10,818	12,714
合 計	1,177,656	893,020

【ご参考】前表に、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券(外貨建の子会社株式及び関連会社株式等)の為替評価等を加えた時価情報は以下のとおりです。

(単位:百万円)

区 分	2018年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
公 社 債	16,450,708	19,341,072	2,890,364	2,890,621	△256
株 式	1,674,228	4,009,367	2,335,139	2,357,708	△22,569
外 国 証 券	8,700,198	9,256,482	556,284	672,815	△116,530
公 社 債	7,135,987	7,585,407	449,420	494,939	△45,518
株 式 等	1,564,211	1,671,074	106,863	177,876	△71,012
その他の証券	776,515	828,070	51,554	62,139	△10,585
そ の 他	263,081	276,285	13,204	14,400	△1,196
合 計	27,864,731	33,711,278	5,846,546	5,997,685	△151,138

(単位:百万円)

区 分	2019年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
公 社 債	16,848,098	19,480,539	2,632,441	2,644,645	△12,203
株 式	1,598,539	3,354,683	1,756,144	1,803,462	△47,317
外 国 証 券	9,583,663	10,172,883	589,220	731,856	△142,636
公 社 債	7,974,006	8,583,680	609,673	641,864	△32,190
株 式 等	1,609,656	1,589,203	△20,453	89,991	△110,445
その他の証券	837,059	845,690	8,631	34,737	△26,106
そ の 他	254,314	264,477	10,162	14,059	△3,896
合 計	29,121,675	34,118,275	4,996,600	5,228,760	△232,160

- (注) 1. 本表に記載されていない2018年度末の有価証券の帳簿価額は403,667百万円(非上場国内有価証券150,667百万円、非上場外国有価証券253,000百万円)です。
2. 本表に記載されていない2019年度末の有価証券の帳簿価額は118,857百万円(非上場国内有価証券118,857百万円)です。
3. この結果、開示率は2018年度末98.6%、2019年度末99.6%となります。
4. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。

④金銭の信託の時価情報

(単位:百万円)

区 分	2018年度末				
	貸借対照表計上額	時価	差損益	差益	差損
金 銭 の 信 託	16,669	16,669	—	—	—

(単位:百万円)

区 分	2019年度末				
	貸借対照表計上額	時価	差損益	差益	差損
金 銭 の 信 託	13,966	13,966	—	—	—

・運用目的の金銭の信託

2018年度末および2019年度末とも保有していません。

・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託

(単位:百万円)

区 分	2018年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の 金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—
責任準備金対応の 金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—
そ の 他 の 金 銭 の 信 託	17,864	16,669	△1,194	—	△1,194

(単位:百万円)

区 分	2019年度末				
	帳簿価額	時価	差損益	差益	差損
満期保有目的の 金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—
責任準備金対応の 金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—
そ の 他 の 金 銭 の 信 託	17,859	13,966	△3,892	—	△3,892

## 5. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2018年度末	2019年度末	科 目	2018年度末	2019年度末
	(2019年3月31日現在)	(2020年3月31日現在)		(2019年3月31日現在)	(2020年3月31日現在)
	金額	金額		金額	金額
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
現金及び預貯金	1,147,715	1,205,486	保険契約準備金	32,622,143	32,880,721
現預金	149	94	支払準備金	130,411	124,477
預貯金	1,147,565	1,205,392	責任準備金	32,248,774	32,510,255
コールローン	90,000	90,000	社員配当準備金	242,957	245,988
買入金銭債権	212,307	204,335	再保険借債	1,065	842
金銭の信託	16,669	13,966	社債	560,735	640,735
有価証券	32,182,181	32,441,200	その他の負債	888,152	1,507,699
国債	14,346,841	14,745,920	売現先勘定	58,266	73,233
地方債	372,091	307,445	債券貸借取引受入担保金	552,716	1,133,523
社債	2,373,171	2,381,604	未払法人税等	13,615	5,479
株式	4,243,360	3,526,761	未払金	52,073	59,299
外国証券	9,702,141	10,359,492	未払費用	30,149	30,960
その他の証券	1,144,574	1,119,976	前受収益	2,681	2,662
貸付金	4,223,805	4,105,435	預り金	26,073	27,984
保険約款貸付	239,335	229,759	預り保証金	35,589	36,014
一般貸付	3,984,470	3,875,676	先物取引差金勘定	—	374
有形固定資産	870,356	864,639	金融派生商品	27,674	81,478
土地	603,904	603,348	金融商品等受入担保金	82,313	48,971
建物	258,110	253,361	資産除去債務	3,288	3,354
建設仮勘定	4,329	4,249	仮受金	3,710	4,362
その他の有形固定資産	4,012	3,680	偶発損失引当金	1	1
無形固定資産	88,489	88,916	価格変動準備金	815,975	832,480
ソフトウェア	47,640	63,215	繰延税金負債	239,296	13,636
その他の無形固定資産	40,848	25,701	再評価に係る繰延税金負債	79,370	79,210
代理店貸	0	0	支払承諾	22,563	19,888
再保険貸	1,189	1,368	負債の部合計	35,229,303	35,975,215
その他の資産	323,984	413,476	<b>(純資産の部)</b>		
未収金	95,809	113,266	基金	260,000	250,000
前払費用	5,906	7,460	基金償却積立金	670,000	730,000
未収収益	105,150	104,675	再評価積立金	452	452
預託金	10,079	11,895	剰余金	491,675	460,763
先物取引差入証拠金	2,355	3,538	損失填補準備金	11,463	11,975
先物取引差金勘定	26	7,973	その他の剰余金	480,212	448,787
金融派生商品	73,754	104,904	基金償却準備金	98,000	90,000
金融商品等差入担保金	17,391	46,024	価格変動積立金	29,764	29,764
仮払金	3,256	3,698	社会厚生事業増進積立金	35	89
その他の資産	10,254	10,040	事業基盤強化積立金	100,000	100,000
前払年金費用	86,903	88,906	不動産圧縮積立金	26,940	26,702
支払承諾見返	22,563	19,888	特別準備金	2,000	2,000
貸倒引当金	△5,361	△6,754	別途積立金	85	85
			当期末処分剰余金	223,386	200,146
			基金等合計	1,422,128	1,441,216
			その他有価証券評価差額金	2,450,220	1,950,825
			繰延ヘッジ損益	41,253	45,187
			土地再評価差額金	117,898	118,421
			評価・換算差額等合計	2,609,372	2,114,434
			純資産の部合計	4,031,501	3,555,650
資産の部合計	39,260,805	39,530,866	負債及び純資産の部合計	39,260,805	39,530,866

# 6. 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2018年度 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)		2019年度 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)	
	金 額		金 額	
<b>経常収益</b>	<b>3,768,212</b>		<b>3,647,824</b>	
保険料収入	2,770,879		2,593,355	
再保険収入	2,769,643		2,588,757	
運用収益	1,236		4,598	
利息及び配当金等収入	911,810		981,072	
預貯金利息	807,260		871,621	
有価証券利息・配当	999		1,893	
貸付金利息	677,845		746,415	
不動産賃貸料	74,234		67,105	
その他利息配当	37,991		38,805	
金銭の信託運用	16,190		17,399	
有価証券売却益	15,762		46	
有価証券償還益	76,650		19,233	
為替差益	8,185		89,915	
その他運用収益	125		255	
特別勘定資産運用	3,824			
その年金特約取扱受入	85,522		73,396	
年保支	16,217		13,797	
退職給付引当金戻入	52,178		43,653	
その他の経常収益	9,455		5,933	
	7,670		2,002	
			8,008	
<b>経常費用</b>	<b>3,394,689</b>		<b>3,412,360</b>	
保険金等支払	2,205,432		2,293,433	
保険料	637,897		604,727	
年金支払	614,555		627,305	
給付返戻	395,524		402,708	
解約の他返戻	463,306		548,700	
再保料	89,249		105,969	
責任準備金等繰入	4,897		4,021	
支責任準備金繰入	465,609		261,570	
社員配当金積立	15,301			
資産運用費用	450,211		261,480	
支金銭の信託運用	97		89	
有価証券売却損	227,135		358,424	
有価証券償還損	12,572		14,262	
金融派生商品費用	184			
貸倒引当金繰入	37,527		6,295	
貸付不動産等減価償却	17,708		104,134	
特別勘定資産運用	4,983		32,134	
事業増進助成	130,169		135,662	
その他経常費用			18,188	
保稅減	341		1,503	
その他			393	
	9,516		9,609	
	14,132		16,292	
			19,948	
	357,421		362,017	
	139,090		136,914	
	78,698		71,474	
	27,606		29,327	
	28,125		29,492	
	4,660		6,620	
<b>経常利益</b>	<b>373,522</b>		<b>235,464</b>	
<b>特別利益</b>	<b>2,409</b>		<b>0</b>	
固定資産等処分益	2,409		0	
偶発損失引当金戻入			0	
<b>特別損失</b>	<b>136,629</b>		<b>20,944</b>	
固定資産等処分損失	1,547		1,679	
減価償却損	1,204		2,245	
偶発損失引当金繰入	0			
価格変動準備金繰入	131,380		16,504	
社会厚生事業増進助成	1,931		4	
	565		510	
<b>税引前当期純利益</b>	<b>239,302</b>		<b>214,520</b>	
<b>法人税等調整額</b>	<b>52,912</b>		<b>47,883</b>	
<b>法人税引当金</b>	<b>△36,140</b>		<b>△33,522</b>	
<b>当期純利益</b>	<b>16,771</b>		<b>14,361</b>	
	222,530		200,159	

## 貸借対照表の注記

1. 有価証券（現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）の評価は、売買目的有価証券については3月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式（保険業法第2条第12項に規定する子会社および保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたものならびに同条第4項に規定する関連法人等が発行する株式をいう）については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるものうち株式については3月中の市場価格等の平均、それ以外（信託財産として運用している有価証券を含む）については3月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む）については移動平均法による償却原価法（定額法）、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
2. 個人保険・個人年金保険および団体年金保険に設定した小区分（保険種類・資産運用方針等により設定）に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第21号）に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。
3. デリバティブ取引の評価は時価法によっております。
4. 土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 2000年3月31日  
同法律第3条第3項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定  
なお、2004年1月1日付の合併により安田生命保険相互会社から承継した土地再評価差額金に係る再評価の年月日および方法は次のとおりであります。  
再評価を行った年月日 2001年3月31日  
同法律第3条第3項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定したほか、第5号に定める「鑑定評価」に基づいて算出
5. 有形固定資産の減価償却の方法は、定率法（ただし、建物については定額法）によっております。
6. 外貨建資産・負債（子会社株式及び関連会社株式は除く）は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社株式及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。
7. 貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。  
なお、破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は183百万円であります。
8. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務見込額および年金資産見込額に基づいて計上しております。

退職給付債務および退職給付費用の処理方法は次のとおりであります。

退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数	10年

過去勤務費用の処理年数 10年

なお、当年度末においては、年金資産見込額が退職給付債務見込額を上回っているため、退職給付引当金の残高はありません。

9. 偶発損失引当金は、保険業法施行規則第 24 条の 4 の規定に基づく引当金であり、貸付金に係るコミットメントライン契約等に関して将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。
10. 価格変動準備金は、保険業法第 115 条の規定により算出した額を計上しております。
11. ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第 10 号）に従い、主に、貸付金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジおよび通貨スワップによる繰延ヘッジ、外貨建貸付金および外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップによる振当処理を行っております。

なお、2009 年度より保険契約に係る金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップ取引を利用しており、「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第 26 号）に基づき繰延ヘッジ処理を行っております。ヘッジ有効性の評価は、ヘッジ対象とヘッジ手段双方の理論価格の算定に影響を与える金利の状況を検証することにより行っております。
12. 責任準備金は、保険業法第 116 条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。
  - (1) 標準責任準備金の対象契約については、内閣総理大臣が定める方式（平成 8 年大蔵省告示第 48 号）
  - (2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式なお、責任準備金には、保険業法施行規則第 69 条第 5 項の規定に基づき積み立てた以下のものが含まれております。
  - ・ 1996 年 4 月 1 日以前に契約締結した個人年金保険契約について、予定利率 2.75%を用いて保険料積立金を計算したことにより生じた差額を追加して積み立てることとしたもの（2007 年度から 3 年間にわたる積み立てを完了）。なお、年金開始する契約の年金開始後部分は、2010 年度以降も年金開始の都度積み立て
  - ・ 変額保険契約および 1995 年 9 月 2 日以降に契約締結した一時払養老保険契約を対象として 2014 年度において積み立てたもの
  - ・ 1998 年 4 月 2 日以降に契約締結した一時払個人年金保険契約を対象として 2017 年度において積み立てたもの
13. 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し 5 年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。
14. 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。
15. 当年度における金融商品の状況に関する事項および金融商品の時価等に関する事項は、次のとおりであります。
  - (1) 金融商品の状況に関する事項

保険業法第 118 条第 1 項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、経済価値で評価した資産と負債の差額であるサープラスを健全性指標の一つとして捉え、サープラスの変動性（リスク）に着目するサープラス・マネジメント型 A L M によっております。

この方針に基づき、具体的な金融資産として、主に有価証券および貸付金に投資しております。有価証券は、主として債券、株式および投資信託等で保有しており、貸付金は、主に国内の取引先に対する貸付であります。

また、デリバティブについては、運用資産、保険負債または社債のリスクに対する主要なヘッジ手段と位置付けており、原則として、ヘッジ目的に利用を限定しております。ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第 10 号）に従い、主に、貸付金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジおよび通貨スワップによる繰延ヘッジ、外貨建貸付金および外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップによる振当処理、金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジを行っております。

なお、有価証券は市場リスク（金利の変動リスク、為替の変動リスクおよび価格変動リスク等）および信用リスク、貸付金は信用リスクおよび金利の変動リスク、デリバティブ取引は市場リスクおよび信用リスクに晒されております。

外貨建社債は、為替の変動リスクに晒されております。

金利の変動リスクの管理に関しては、サープラス・マネジメントの観点から、超長期債購入による持続的・安定的な資産デュレーションの長期化および金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジ等により、負債も含めた経済価値ベースの変動リスクを管理しております。為替の変動リスクの管理に関しては、リスク水準の適切なコントロールのため必要に応じ為替予約等を利用し、為替リスクのヘッジを行っております。価格変動リスクを含めた市場リスクの管理に関しては、有価証券やデリバティブ取引について残高および損益状況を一元的に管理しているほか、適宜、限度枠を設定することで損失を一定範囲に収める仕組みを導入しております。

さらに、当社では Va R 手法による最大予想損失額の測定に加えて、通常の予測を超えた急激な市場変動が発生

する事態も想定して、ストレステストを定期的に行っております。また、これらの損益状況やルールへの遵守状況は、資産運用リスク管理部署が監視し、リスク管理検証委員会に定期的に（緊急時は遅滞なく）報告を行うほか、重要なものは取締役会等に報告しております。

信用リスクの管理にあたっては、個別取引ごとに、リスクを慎重に見極め、安全性が高いと判断される対象に限定して運用を行っております。なお、信用リスク判断が特に重要な企業向け貸付については、審査管理部署において、厳正な審査体制の確保、信用供与先に対するモニタリング、企業審査手法を活用した社内信用格付制度を実施するとともに、重要度の高い案件については、投融資検討会議等で慎重に検討のうえ決裁する体制となっております。また、リスクが特定企業・グループ等に集中することのないよう信用度に応じた与信枠を設定し、管理を行う等運用先の分散を図っております。

デリバティブ取引に関しては、利用方針等を規定するとともに、取引種類別の残高制限および取引先ごとの与信枠を設定するなどしてリスクを抑制するとともに、取引を執行する部署と事務管理部署を分離し、内部牽制が働く組織体制をとり、適切なリスク管理を行っております。

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

当年度末における主な金融資産および金融負債に係る貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	1,205,486	1,205,486	—
その他有価証券(譲渡性預金)	32,995	32,995	—
買入金銭債権	204,335	217,514	13,179
満期保有目的の債券	192,270	205,449	13,179
その他有価証券	12,064	12,064	—
金銭の信託	13,966	13,966	—
その他有価証券	13,966	13,966	—
有価証券	31,548,038	33,890,160	2,342,122
売買目的有価証券	743,989	743,989	—
満期保有目的の債券	3,943,062	4,676,686	733,623
責任準備金対応債券	8,923,833	10,532,331	1,608,498
その他有価証券	17,937,152	17,937,152	—
貸付金	4,105,435	4,303,647	198,212
保険約款貸付	229,759	229,759	—
一般貸付	3,875,676	4,073,888	198,212
貸倒引当金(*1)	△5,452	—	—
	4,099,982	4,303,647	203,665
社債	640,735	629,271	△11,463
売現先勘定	73,233	73,233	—
債券貸借取引受入担保金	1,133,523	1,133,523	—
金融派生商品(*2)	23,425	23,425	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	(27,843)	(27,843)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	51,269	51,269	—

(\*1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しております。

(\*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で示しております。

(注 1) 金融商品の時価の算定方法

・資産

① 現金及び預貯金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 10 号)に基づく有価証券として取り扱うものについては、④有価証券と同様に評価しております。

② 買入金銭債権

買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 10 号)に基づく有価証券として取り扱うものについては、④有価証券と同様に評価しており、時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引く方法により算定された理論価格または取引相手先から入手した 3 月末日の時価等によっております。

③金銭の信託

信託財産として運用している市場価格のある有価証券については、3月末日の市場価格等によっております。

④有価証券

その他有価証券のうち市場価格のある国内株式については、3月中の市場価格の平均等によっております。上記以外の有価証券については3月末日の市場価格等によっております。

なお、市場価格がない非上場株式等については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしておらず、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当年度末における貸借対照表価額は、893,162百万円（うち子会社株式及び関連会社株式847,921百万円）であります。また、当年度において、子会社株式及び関連会社株式以外の非上場株式等について287百万円減損処理を行っております。

⑤貸付金

保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込期間および金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

一般貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引いた価格によっております。なお、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。

・負債

①社債

3月末日の情報ベンダーが提供する価格によっております。

②売現先勘定

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

③債券貸借取引受入担保金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

・金融派生商品

①株価指数先物、債券先物等の取引所取引の時価については、3月末日の終値または清算価格等によっております。

②外国為替予約等の店頭取引の時価については、3月末日のT T M、WMロイターレート、割引レート等を基準とした理論価格または情報ベンダーが提供する価格によっております。

なお、通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸付金および社債と一体として処理されているため、その時価は、当該貸付金および社債の時価に含めて記載しております。

③金利スワップ取引の時価については、3月末日の情報ベンダーが提供する価格によっております。

なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸付金と一体として処理されているため、その時価は、当該貸付金の時価に含めて記載しております。

(注2) 保有目的ごとの有価証券に関する注記事項

①売買目的有価証券において、当年度の損益に含まれた評価差額は△32,957百万円であります。

②満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、当年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	①国債・地方債等	3,397,566	4,051,049	653,483
	②社債	438,346	512,962	74,616
	③その他	288,620	307,556	18,936
	合計	4,124,533	4,871,569	747,035
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	①国債・地方債等	—	—	—
	②社債	2,800	2,798	△1
	③その他	8,000	7,768	△231
	合計	10,800	10,567	△232

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

③責任準備金対応債券の目標デュレーション達成のための当年度中の売却額は285,843百万円であり、売却益の合計額は12,913百万円、売却損の合計額は25百万円であります。信用状態の著しい悪化による当年度中の売却額は1,128百万円、売却損は104百万円であります。また、責任準備金対応債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	①国債・地方債等	7,474,934	9,023,047	1,548,113
	②社債	17,156	21,193	4,037
	③その他	678,166	746,731	68,565
	合計	8,170,256	9,790,973	1,620,716

時価が貸借対照表計上額を越えないもの	①国債・地方債等	643,382	634,664	△8,717
	②社債	1,853	1,829	△24
	③その他	108,340	104,864	△3,476
	合計	753,576	741,358	△12,218

④その他有価証券の当年度中の売却額は286,600百万円であり、売却益の合計額は6,320百万円、売却損の合計額は6,166百万円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	取得原価 または 償却原価	貸借対照表 計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	(1)株式	1,188,129	2,991,591	1,803,462
	(2)債券	4,655,016	5,019,411	364,394
	①国債・地方債等	3,057,771	3,345,513	287,741
	②社債	1,597,245	1,673,898	76,652
	(3)その他	7,448,981	8,131,550	682,568
	合計	13,292,127	16,142,552	2,850,425
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を越えないもの	(1)株式	410,410	363,092	△47,317
	(2)債券	217,042	213,582	△3,460
	①国債・地方債等	24,226	24,038	△188
	②社債	192,816	189,544	△3,271
	(3)その他	1,368,766	1,276,951	△91,814
	合計	1,996,218	1,853,626	△142,591

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

⑤上記の表中にある「取得原価または償却原価」は減損処理後の帳簿価額であります。当年度において、その他有価証券で時価のある株式等について87,730百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預貯金	1,205,392	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	204,335
貸付金(*)	376,133	693,967	607,674	610,688	766,712	819,816
有価証券	891,693	2,430,711	1,527,391	1,358,427	4,124,543	15,499,407
満期保有目的の債券	183,178	366,145	408,820	621,364	269,849	2,090,904
責任準備金対応債券	7,404	111,669	12,556	79,308	1,407,162	7,305,731
その他有価証券のうち満期があるもの	701,110	1,952,896	1,106,015	657,753	2,447,531	6,102,771
合計	2,473,219	3,124,678	2,135,065	1,969,115	4,891,255	16,523,558

(\*)貸付金のうち、破産更生債権等、償還予定額が見込めない684百万円は含めておりません。

(\*)貸付金のうち、保険約款貸付については、償還期限がないので含めておりません。

(注4) 社債、売現先勘定および債券貸借取引受入担保金の決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
社債	—	—	—	—	—	640,735
売現先勘定	73,233	—	—	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	1,133,523	—	—	—	—	—
合計	1,206,757	—	—	—	—	640,735

16. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当年度末における当該賃貸等不動産の貸借対照表価額は565,200百万円、時価は812,735百万円であります。なお、時価の算定にあたっては、主とし

て不動産鑑定士による鑑定評価（指標等を用いて調整を行ったものを含む）によっております。

17. 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権の額は、18,048百万円であります。なお、それぞれの内訳は以下のとおりであります。

貸付金のうち、破綻先債権額は26百万円であります。また、延滞債権額は5,091百万円であります。

上記取立不能見込額の直接減額は、破綻先債権額161百万円、延滞債権額22百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

貸付金のうち、3ヵ月以上延滞債権額はありせん。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものであります。

貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は12,930百万円であります。

なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。

18. 有形固定資産の減価償却累計額は、453,045百万円であります。

19. 保険業法第118条第1項の規定による特別勘定の資産の額は、810,928百万円であります。

なお、同勘定の負債の額も同額であります。

20. 保険業法施行規則第30条第2項に規定する金額は、2,114,887百万円であります。

21. 子会社等に対する金銭債権の総額は、2,310百万円、金銭債務の総額は、3,686百万円であります。

22. 貸借対照表に計上した有形固定資産および無形固定資産のほか、リース契約により使用している重要な有形固定資産として電子計算機およびその周辺機器等があります。

23. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

当期首現在高	242,957百万円
前期剰余金よりの繰入額	169,630百万円
当期社員配当金支払額	166,720百万円
利息による増加等	121百万円
当期末現在高	245,988百万円

24. 保険業法第60条の規定により基金を50,000百万円新たに募集いたしました。

25. 基金を60,000百万円償却したことに伴い、同額を保険業法第56条の規定による基金償却積立金へ振り替えております。

26. 担保に供されている資産の額は、有価証券29,285百万円あります。

27. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券（現金担保付債券貸借取引による有価証券を含む）の貸借対照表価額は2,762,898百万円、売現先取引により買戻し条件付で売却した有価証券の貸借対照表価額は75,520百万円あります。

28. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は、74,610百万円あります。

29. 負債の部の社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債および外貨建劣後特約付社債であります。

30. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当年度末における当社の今後の負担見積額は47,627百万円あります。

なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

31. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	273,446 百万円
勤務費用	9,461 百万円
利息費用	2,461 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	1,022 百万円
退職給付の支払額	△18,158 百万円
過去勤務費用の当期発生額	△9,764 百万円
期末における退職給付債務	258,468 百万円

②年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	360,723 百万円
期待運用収益	3,398 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△36,429 百万円
事業主からの拠出額	2,183 百万円
退職給付の支払額	△7,586 百万円
期末における年金資産	322,289 百万円

③退職給付債務および年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金および前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	257,471 百万円
年金資産	△322,289 百万円
	△64,817 百万円
非積立型制度の退職給付債務	997 百万円
未認識数理計算上の差異	△35,633 百万円
未認識過去勤務費用	10,547 百万円
退職給付引当金（△は前払年金費用）	△88,906 百万円

④退職給付に関連する損益

勤務費用	9,461 百万円
利息費用	2,461 百万円
期待運用収益	△3,398 百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	4,034 百万円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△1,805 百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	10,752 百万円

⑤年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

債券	7.5%
株式	30.7%
生命保険一般勘定	30.4%
共同運用資産	20.1%
投資信託	2.6%
現金及び預金	2.0%
その他	6.6%
合計	100.0%

年金資産合計には、退職給付信託が 49.4%含まれております。

⑥長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑦数理計算上の計算基礎に関する事項

当年度末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

割引率	0.9%
長期期待運用収益率	
確定給付企業年金	2.0%
退職給付信託	0.0%

(3) 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は 992 百万円であります。

32. 子会社等の株式等は、847,921 百万円であります。

33. 繰延税金資産の総額は、775,829 百万円、繰延税金負債の総額は、785,018 百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、4,447 百万円であります。  
繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金 428,745 百万円および価格変動準備金 232,761 百万円であります。  
繰延税金負債の発生の主なものは、その他有価証券の評価差額 735,416 百万円であります。  
当年度における法定実効税率は 27.96%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主な内訳は、社員配当準備金に係る△18.38%であります。
34. 保険業法施行規則第 73 条第 3 項において準用する同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という）の金額は 17 百万円、同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という）の金額は 28,660 百万円であります。

## 損益計算書の注記

1. 子会社等との取引による収益の総額は、26,314百万円、費用の総額は、36,918百万円であります。
2. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券9,928百万円、株式等4,388百万円、外国証券4,916百万円であります。有価証券売却損の内訳は、国債等債券553百万円、株式等205百万円、外国証券5,536百万円であります。有価証券評価損の主な内訳は、株式等72,590百万円、外国証券30,432百万円であります。
3. 支払備金戻入額の計算上、差し引かれた出再支払備金戻入額の金額は300百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は410百万円であります。
4. 「金融派生商品費用」には、評価損が156,021百万円含まれております。
5. 当年度における減損損失に関する事項は、次のとおりであります。

### (1) 資産のグルーピング方法

保険事業等の用に供している不動産等については、保険事業等全体で1つの資産グループとしております。また、保険事業等の用に供していない賃貸不動産等および遊休不動産等については、それぞれの物件ごとに1つの資産グループとしております。

### (2) 減損損失の認識に至った経緯

一部の資産グループに著しい収益性の低下または時価の下落が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

### (3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

用途	件数	減 損 損 失 (百万円)		
		土 地	建 物	計
賃貸不動産等	1件	565	906	1,471
遊休不動産等	7件	98	674	773
合 計	8件	663	1,581	2,245

### (4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、賃貸不動産等については物件により使用価値または正味売却価額を、遊休不動産等については正味売却価額を適用しております。なお、使用価値については見積乖離リスクを反映させた将来キャッシュ・フローを1.89%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額については不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額等から処分費用見込額を差し引いた価額、または公示価格等を基準にした評価額等をもとに算定しております。

## 7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	2018年度	2019年度
基礎利益 A	589,657	591,655
キャピタル収益	23,948	57,023
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	15,762	19,233
金融派生商品収益	—	—
為替差益	8,185	—
その他キャピタル収益	—	37,789
キャピタル費用	189,109	305,871
金銭の信託運用損	397	254
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	37,527	6,295
有価証券評価損	17,708	104,134
金融派生商品費用	130,169	135,662
為替差損	—	18,188
その他キャピタル費用	3,307	41,337
キャピタル損益 B	△165,160	△248,848
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	424,497	342,806
臨時収益	—	—
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	—	—
その他臨時収益	—	—
臨時費用	50,974	107,342
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	18,926	76,927
個別貸倒引当金繰入額	562	1,109
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	393
その他臨時費用	31,484	28,911
臨時損益 C	△50,974	△107,342
経常利益 A + B + C	373,522	235,464

（参考）その他項目の内訳

（単位：百万円）

	2018年度	2019年度
基礎利益	3,520	3,849
金銭の信託運用損益のうち利息及び配当金等収入に該当する額	213	300
マーケット・ヴァリュア・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額	2,137	41,337
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	1,169	△37,789
その他キャピタル収益	—	37,789
マーケット・ヴァリュア・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額	—	—
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	—	37,789
その他キャピタル費用	3,307	41,337
マーケット・ヴァリュア・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額	2,137	41,337
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	1,169	—
その他臨時費用	31,484	28,911
保険業法施行規則第69条第5項に基づく責任準備金繰入額	31,484	28,911

## 8. 基礎利益の内訳（三利源）

（単位：億円）

	2018年度	2019年度
基礎利益 A	5,896	5,916
利差	2,732	3,186
危険差	2,754	2,526
費差	408	204
キャピタル損益 B	△1,651	△2,488
臨時損益 C	△509	△1,073
経常利益 D (= A + B + C)	3,735	2,354
特別損益・法人税等 E	△1,501	△353
当期未処分剰余金 F (= D + E)	2,233	2,001

# 9. 基金等変動計算書

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等													基金等 合計
	基金	基金償却 積立金	再評価 積立金	剰余金									剰余金 合計	
				損失填補 準備金	基金償却 準備金	価格変動 積立金	社会厚生 事業増進 積立金	事業基盤 強化 積立金	不動産 圧縮 積立金	特別 準備金	別途 積立金	当期 未処分 剰余金		
当期首残高	260,000	620,000	452	10,902	96,000	29,764	47	100,000	27,380	2,000	85	239,577	505,757	1,386,210
当期変動額														
基金の募集	50,000													50,000
社員配当準備金の積立												△185,731	△185,731	△185,731
損失填補準備金の積立				561								△561		
基金償却積立金の積立		50,000												50,000
基金利息の支払												△1,171	△1,171	△1,171
当期純剰余												222,530	222,530	222,530
基金の償却	△50,000													△50,000
基金償却準備金の積立					52,000							△52,000		
基金償却準備金の取崩					△50,000								△50,000	△50,000
社会厚生事業増進積立金の積立							553					△553		
社会厚生事業増進積立金の取崩							△565					565		
不動産圧縮積立金の積立									105			△105		
不動産圧縮積立金の取崩									△544			544		
土地再評価差額金の取崩												290	290	290
基金等以外の項目の当期変動額(純額)														
当期変動額合計	—	50,000	—	561	2,000	—	△11	—	△439	—	—	△16,190	△14,081	35,918
当期末残高	260,000	670,000	452	11,463	98,000	29,764	35	100,000	26,940	2,000	85	223,386	491,675	1,422,128

	評価・換算差額等				純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,564,070	35,881	118,189	2,718,141	4,104,352
当期変動額					
基金の募集					50,000
社員配当準備金の積立					△185,731
損失填補準備金の積立					
基金償却積立金の積立					50,000
基金利息の支払					△1,171
当期純剰余					222,530
基金の償却					△50,000
基金償却準備金の積立					
基金償却準備金の取崩					△50,000
社会厚生事業増進積立金の積立					
社会厚生事業増進積立金の取崩					
不動産圧縮積立金の積立					
不動産圧縮積立金の取崩					
土地再評価差額金の取崩					290
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	△113,850	5,372	△290	△108,768	△108,768
当期変動額合計	△113,850	5,372	△290	△108,768	△72,850
当期末残高	2,450,220	41,253	117,898	2,609,372	4,031,501

2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等													基金等 合計
	基金	基金償却 積立金	再評価 積立金	剰余金									剰余金 合計	
				損失填補 準備金	基金償却 準備金	価格変動 積立金	社会厚生 事業増進 積立金	事業基盤 強化 積立金	不動産 圧縮 積立金	特別 準備金	別途 積立金	当期 未処分 剰余金		
当期首残高	260,000	670,000	452	11,463	98,000	29,764	35	100,000	26,940	2,000	85	223,386	491,675	1,422,128
当期変動額														
基金の募集	50,000													50,000
社員配当準備金の積立												△169,630	△169,630	△169,630
損失填補準備金の積立				512								△512		
基金償却積立金の積立		60,000												60,000
基金利息の支払												△918	△918	△918
当期純剰余												200,159	200,159	200,159
基金の償却	△60,000													△60,000
基金償却準備金の積立					52,000							△52,000		
基金償却準備金の取崩					△60,000								△60,000	△60,000
社会厚生事業増進積立金の積立							564					△564		
社会厚生事業増進積立金の取崩							△510					510		
不動産圧縮積立金の積立									306			△306		
不動産圧縮積立金の取崩									△544			544		
土地再評価差額金の取崩												△522	△522	△522
基金等以外の項目の当期変動額(純額)														
当期変動額合計	△10,000	60,000	—	512	△8,000	—	53	—	△238	—	—	△23,239	△30,912	19,087
当期末残高	250,000	730,000	452	11,975	90,000	29,764	89	100,000	26,702	2,000	85	200,146	460,763	1,441,216

	評価・換算差額等				純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,450,220	41,253	117,898	2,609,372	4,031,501
当期変動額					
基金の募集					50,000
社員配当準備金の積立					△169,630
損失填補準備金の積立					
基金償却積立金の積立					60,000
基金利息の支払					△918
当期純剰余					200,159
基金の償却					△60,000
基金償却準備金の積立					
基金償却準備金の取崩					△60,000
社会厚生事業増進積立金の積立					
社会厚生事業増進積立金の取崩					
不動産圧縮積立金の積立					
不動産圧縮積立金の取崩					
土地再評価差額金の取崩					△522
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	△499,394	3,933	522	△494,938	△494,938
当期変動額合計	△499,394	3,933	522	△494,938	△475,850
当期末残高	1,950,825	45,187	118,421	2,114,434	3,555,650

## 10. 剰余金処分

(単位：百万円)

科 目	2018年度	2019年度
	(2018年4月1日から2019年3月31日まで)	(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
当 期 未 処 分 剰 余 金	223,386	200,146
任 意 積 立 金 取 崩 額	544	544
不 動 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	544	544
計	223,931	200,691
剰 余 金 処 分 額	223,931	200,691
社 員 配 当 準 備 金	169,630	148,874
差 引 純 剰 余 金	54,300	51,816
損 失 填 補 準 備 金	512	449
基 金 利 息	918	757
任 意 積 立 金	52,870	50,610
基 金 償 却 準 備 金	52,000	50,000
社 会 厚 生 事 業 増 進 積 立 金	564	610
不 動 産 圧 縮 積 立 金	306	—

## 1 1. 債務者区分による債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末	2019年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	438	409
危険債権	3,504	4,709
要管理債権	15,225	13,109
小計	19,168	18,227
(対合計比)	(0.29)	(0.26)
正常債権	6,623,904	6,960,483
合計	6,643,073	6,978,710

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始または再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約にしたがった債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3ヵ月以上延滞貸付金および条件緩和貸付金です。なお、3ヵ月以上延滞貸付金とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸付金(注1および2に掲げる債権を除く)です。条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なった貸付金(注1および2に掲げる債権ならびに3ヵ月以上延滞貸付金を除く)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

### 【ご参考】貸付金等の自己査定状況

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金額	占率	金額	占率
非分類	6,627,868	99.8	6,957,460	99.7
Ⅱ分類	15,031	0.2	20,936	0.3
Ⅲ分類	172	0.0	312	0.0
Ⅳ分類	—	—	—	—
Ⅱ～Ⅳ分類計	15,204	0.2	21,249	0.3
合計	6,643,073	100.0	6,978,710	100.0

- (注) 1. 貸付金等とは、貸付金、貸付有価証券、支払承諾見返、未収収益(左記資産に係るもの)、仮払金(貸付金に準ずるもの)の合計です。
2. 本表は償却・引当実施後のものです。
3. 非分類とは、回収の可能性または価値の毀損の危険性について、問題のない資産です。
4. Ⅱ分類とは、債権確保上の諸条件が満足に充たされない、あるいは、信用上疑義がある等の理由により、その回収について通常の度合を超える危険を含むと認められる債権等の資産です。
5. Ⅲ分類とは、最終の回収または価値について重大な懸念があり、したがって損失の発生の可能性が高いが、その損失額について合理的な推計が困難な資産です。
6. Ⅳ分類とは、回収不可能または無価値と判定される資産です。

## 1 2. リスク管理債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末	2019年度末
破 綻 先 債 権 額	—	26
延 滞 債 権 額	3,943	5,091
3 ヲ月 以 上 延 滞 債 権 額	—	—
貸 付 条 件 緩 和 債 権 額	15,012	12,930
合 計	18,955	18,048
( 貸 付 残 高 に 対 す る 比 率 )	(0.45)	(0.44)

- (注) 1. 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる金額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しています。その金額は、2018年度末が破綻先債権額91百万円、延滞債権額1百万円、2019年度末が破綻先債権額161百万円、延滞債権額22百万円です。
2. 破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(未収利息不計上貸付金)のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、または手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
3. 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸付金です。
4. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
5. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

### 13. 貸倒引当金等の状況

(単位：百万円)

摘 要	2018年度	2019年度	比較
(1) 貸倒引当金残高の内訳			
ア. 一般貸倒引当金	1,089	1,483	394
イ. 個別貸倒引当金(注)	4,271	5,270	998
ウ. 特定海外債権引当勘定	—	—	—
(2) 個別貸倒引当金			
ア. 繰入額	4,364	5,453	1,088
イ. 取崩額 [償却等に伴う取崩額を除く]	3,802	4,344	542
ウ. 繰入額	562	1,109	546
(3) 特定海外債権引当勘定			
ア. 対象国数	—	—	—
イ. 債権額	—	—	—
ウ. 繰入額	—	—	—
エ. 取崩額	—	—	—
(4) 貸付金償却	—	393	393

#### 【ご参考】

(単位：百万円)

摘 要	2018年度	2019年度	比較
偶発損失引当金	1	1	△0

(注) 破産、民事再生等、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）および実質的に経営破綻に陥っている債務者（実質破綻先）に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額（2018年度：93百万円、2019年度：183百万円）として債権額から直接減額しています。

## 14. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2018年度末	2019年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	7,813,804	7,431,277
基金等	1,247,299	1,287,358
価格変動準備金	815,975	832,480
危険準備金	710,714	787,642
一般貸倒引当金	1,089	1,483
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	3,060,911	2,438,301
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	400,514	461,418
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	909,388	870,776
負債性資本調達手段等	560,735	640,735
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	107,176	111,080
リスクの合計額	1,589,199	1,389,912
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額 R1	120,996	121,334
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	69,193	74,178
予定利率リスク相当額 R2	146,472	141,076
最低保証リスク相当額 R7	11,035	7,345
資産運用リスク相当額 R3	1,385,352	1,196,544
経営管理リスク相当額 R4	34,660	30,809
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	983.3%	1,069.3%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条および第87条ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

2. 「最低保証リスク相当額」は、平成8年大蔵省告示第50号第2条第4項に規定する標準的方式に基づいて算出しています。

## 15. 実質純資産額

(単位：百万円)

項 目	2018年度末	2019年度末
実質純資産額	10,193,061	9,496,691
一般勘定資産に対する比率	26.5%	24.5%

- (注) 1. 上記は、保険業法第132条第2項に規定する区分等を定める命令第3条第2項の規定に基づいて算出しています。
2. 「満期保有目的の債券」および「責任準備金対応債券」の含み損益（2018年度末：2,490,129百万円、2019年度末：2,355,301百万円）を控除した場合の実質純資産額は、2018年度末：7,702,931百万円、2019年度末：7,141,389百万円となっています。

## 16. 特別勘定の状況

### (1) 特別勘定資産残高の状況

(単位:百万円)

区 分	2018年度末	2019年度末
個人変額保険	55,634	46,722
変額個人年金保険	294,285	252,139
団体年金保険	475,451	512,065
合 計	825,371	810,928

### (2) 個人変額保険(特別勘定)の状況

#### ア. 保有契約高

(単位:件、百万円)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変額保険(有期型)	—	—	—	—
変額保険(終身型)	50,818	470,176	49,710	458,423
合 計	50,818	470,176	49,710	458,423

(注) 保有契約高には、定期保険特約部分を含んでいます。

#### イ. 資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金 額	占率	金 額	占率
現預金・コールローン	512	0.9	548	1.2
有 価 証 券	52,194	93.8	42,865	91.7
公 社 債	16,166	29.1	13,990	29.9
株 式	17,607	31.6	13,137	28.1
外 国 証 券	18,420	33.1	15,737	33.7
公 社 債	5,054	9.1	4,721	10.1
株 式 等	13,365	24.0	11,015	23.6
その他の証券	—	—	—	—
貸 付 金	—	—	—	—
そ の 他	2,926	5.3	3,309	7.1
貸 倒 引 当 金	—	—	—	—
合 計	55,634	100.0	46,722	100.0

#### ウ. 運用収支の内訳

(単位:百万円)

区 分	2018年度	2019年度
利息及び配当金等収入	1,176	996
有価証券売却益	3,700	2,911
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	6,032	4,903
為替差益	25	16
金融派生商品収益	283	554
その他の収益	5	3
有価証券売却損	2,832	2,394
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	7,786	9,143
為替差損	21	30
金融派生商品費用	255	244
その他の費用	1	1
収 支 差 額	327	△2,429

(3) 変額個人年金保険(特別勘定)の状況

ア. 保有契約高

(単位:件、百万円)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変額個人年金保険	91,855	298,040	84,895	263,847

(注)保有契約高には、年金開始後契約等の一般勘定部分を含んでいます。

イ. 資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2018年度末		2019年度末	
	金 額	占率	金 額	占率
現預金・コールローン	264	0.1	546	0.2
有価証券	291,779	99.1	247,899	98.3
公 社 債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—
その他の証券	291,779	99.1	247,899	98.3
貸付金	—	—	—	—
その他の	2,242	0.8	3,693	1.5
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	294,285	100.0	252,139	100.0

ウ. 運用収支の内訳

(単位:百万円)

区 分	2018年度	2019年度
利息及び配当金等収入	4,577	7,127
有価証券売却益	0	0
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	43,459	38,087
為替差益	—	—
金融派生商品収益	—	—
その他の収益	—	—
有価証券売却損	440	543
有価証券償還損	—	0
有価証券評価損	48,599	48,049
為替差損	—	—
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	—	—
収支差額	△1,002	△3,376

## 17. 保険会社およびその子会社等の状況

### (1) 主要な業務の状況を示す指標

(単位:億円)

項目	2018年度	2019年度
経常収益	41,825	40,733
経常利益	3,906	2,535
親会社に帰属する当期純剰余	2,295	2,078
包括利益	530	△ 2,644

項目	2018年度末	2019年度末
総資産	421,207	426,138
ソルベンシー・マージン比率	1,040.1%	1,143.6%

項目	2018年度	2019年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,433	6,771
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,178	△ 7,314
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,018	720
現金及び現金同等物期末残高	13,474	12,930

### (2) 連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結される子会社および子法人等数	17 社
持分法適用の非連結の子会社および子法人等数	0 社
持分法適用の関連法人等数	9 社
期中における重要な子会社等の異動について	無

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	無
② ①以外の会計方針の変更	無
③ 会計上の見積りの変更	無
④ 修正再表示	無

(注)会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、日本基準に基づき連結財務諸表を作成しております。

## (4) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2018年度末	2019年度末	科 目	2018年度末	2019年度末
	(2019年3月31日現在)	(2020年3月31日現在)		(2019年3月31日現在)	(2020年3月31日現在)
	金 額	金 額		金 額	金 額
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	1,287,537	1,246,447	保険契約準備金	35,321,301	35,817,626
コールローン	90,000	90,000	支払備金	738,628	723,195
買入金銭債権	212,307	204,335	責任準備金	34,339,715	34,848,442
金銭の信託	21,669	15,166	社員配当準備金	242,957	245,988
有価証券	33,403,624	34,023,049	代理店借	2,937	3,707
貸付金	5,019,827	4,913,456	再保険借	1,187	964
有形固定資産	912,057	905,204	社債	589,098	668,563
土地	618,014	617,250	その他負債	1,012,377	1,584,263
建物	280,168	274,919	退職給付に係る負債	6,995	8,229
リース資産	711	469	偶発損失引当金	1	1
建設仮勘定	5,221	4,828	価格変動準備金	816,962	833,615
その他の有形固定資産	7,941	7,737	繰延税金負債	281,498	56,462
無形固定資産	467,182	442,229	再評価に係る繰延税金負債	79,370	79,210
ソフトウェア	55,131	69,106	支払承諾	22,563	19,888
のれん	132,965	123,595	負債の部合計	38,134,293	39,072,534
その他の無形固定資産	279,086	249,527	(純資産の部)		
代理店貸	1,578	1,612	基金	260,000	250,000
再保険貸	164,308	161,038	基金償却積立金	670,000	730,000
その他資産	428,437	529,429	再評価積立金	452	452
退職給付に係る資産	91,988	66,029	連結剰余金	499,135	475,912
繰延税金資産	2,994	2,762	基金等合計	1,429,588	1,456,365
支払承諾見返	22,563	19,888	その他有価証券評価差額金	2,442,225	1,993,002
貸倒引当金	△5,361	△6,754	繰延ヘッジ損益	41,253	45,187
			土地再評価差額金	117,898	118,421
			為替換算調整勘定	△44,976	△49,497
			退職給付に係る調整累計額	△273	△22,818
			その他の包括利益累計額合計	2,556,127	2,084,295
			非支配株主持分	705	700
			純資産の部合計	3,986,421	3,541,362
資産の部合計	42,120,715	42,613,896	負債及び純資産の部合計	42,120,715	42,613,896

(5) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

科 目	2018年度	2019年度
	(2018年4月1日から2019年3月31日まで)	(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
	金 額	金 額
<b>経 常 収 益</b>	<b>4,182,501</b>	<b>4,073,384</b>
保 険 料 等 収 入	3,081,385	2,911,826
資 産 運 用 収 益	980,255	1,051,103
利 息 及 び 配 当 金 等 収 入	872,291	936,932
金 銭 の 信 託 運 用 益	—	47
有 価 証 券 売 却 益	16,595	20,486
有 価 証 券 償 還 益	76,949	90,742
為 替 差 益	8,186	—
そ の 他 運 用 収 益	2,408	2,895
特 別 勘 定 資 産 運 用 益	3,824	—
そ の 他 経 常 収 益	120,860	110,454
<b>経 常 費 用</b>	<b>3,791,882</b>	<b>3,819,847</b>
保 険 金 等 支 払 金	2,424,510	2,515,851
保 険 金	725,847	694,334
年 給 付 金	616,446	629,047
解 約 返 戻 金	523,719	532,584
そ の 他 返 戻 金 等	464,349	549,892
責 任 準 備 金 等 繰 入 額	94,147	109,991
支 払 備 金 繰 入 額	465,714	264,233
責 任 準 備 金 繰 入 額	13,631	—
社 員 配 当 金 積 立 利 息 繰 入 額	451,985	264,143
資 産 運 用 費 用	97	89
支 払 利 息	261,599	397,021
金 銭 の 信 託 運 用 損	33,866	44,740
有 価 証 券 売 却 損	183	—
有 価 証 券 評 価 損	39,925	6,983
有 価 証 券 償 還 損	17,893	104,319
金 融 派 生 商 品 費 用	5,075	32,140
為 替 差 損	130,990	133,638
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	—	18,187
貸 付 金 償 却	779	1,818
貸 貸 用 不 動 産 等 減 価 償 却 費	—	393
そ の 他 運 用 費 用	10,210	10,226
特 別 勘 定 資 産 運 用 損	22,675	24,624
事 業 費 用	—	19,948
そ の 他 経 常 費 用	468,136	476,964
	171,920	165,776
<b>経 常 利 益</b>	<b>390,618</b>	<b>253,536</b>
<b>特 別 利 益</b>	<b>2,758</b>	<b>46</b>
固 定 資 産 等 処 分 益	2,758	45
偶 発 損 失 引 当 金 戻 入 額	—	0
<b>特 別 損 失</b>	<b>136,852</b>	<b>21,326</b>
固 定 資 産 等 処 分 損	1,590	1,723
減 損 損 失	1,204	2,428
偶 発 損 失 引 当 金 繰 入 額	0	—
価 格 変 動 準 備 金 繰 入 額	131,553	16,658
不 動 産 圧 縮 損	1,931	4
社 会 厚 生 事 業 増 進 助 成 金	565	510
そ の 他 特 別 損 失	6	—
税 金 等 調 整 前 当 期 純 剰 余	256,525	232,256
法 人 税 及 び 住 民 税 等	58,212	56,111
法 人 税 等 調 整 額	△32,673	△31,784
法 人 税 等 合 計	25,539	24,327
当 期 純 剰 余	230,985	207,929
非 支 配 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 剰 余	1,406	80
親 会 社 に 帰 属 する 当 期 純 剰 余	229,579	207,848

## (連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

科 目	2018年度	2019年度
	(2018年4月1日から2019年3月31日まで)	(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
	金 額	金 額
当 期 純 剰 余	230,985	207,929
そ の 他 の 包 括 利 益	△177,940	△472,354
その他有価証券評価差額金	△140,068	△452,092
繰延ヘッジ損益	5,372	3,933
為替換算調整勘定	△10,701	△8,446
退職給付に係る調整額	△24,130	△22,545
持分法適用会社に対する持分相当額	△8,412	6,795
包 括 利 益	53,045	△264,425
親会社に係る包括利益	51,623	△264,505
非支配株主に係る包括利益	1,421	80

## (6) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	2018年度	2019年度
	(2018年4月1日から2019年3月31日まで)	(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
	金 額	金 額
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純剰余 (△は損失)	256,525	232,256
貸貸用不動産等減価償却費	10,210	10,226
減価償却費	44,147	43,525
減損損失	1,204	2,428
のれん償却額	7,745	7,645
支払備金の増減額 (△は減少)	13,571	△7,617
責任準備金の増減額 (△は減少)	552,611	361,070
社員配当準備金積立利息繰入額	97	89
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	260	1,392
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,904	177
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	0	△0
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	131,553	16,658
利息及び配当金等収入	△872,291	△936,932
有価証券関係損益 (△は益)	△138,094	177,238
支払利息	33,866	44,740
為替差損益 (△は益)	△13,715	5,498
有形固定資産関係損益 (△は益)	△994	1,678
持分法による投資損益 (△は益)	△3,638	△4,249
代理店貸の増減額 (△は増加)	△9	△35
再保険貸の増減額 (△は増加)	1,805	1,154
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は増加)	80,572	△56,814
代理店借の増減額 (△は減少)	58	808
再保険借の増減額 (△は減少)	△11	△222
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は減少)	12,012	65,339
その他	△10,290	△220
小 計	110,101	△34,161
利息及び配当金等の受取額	911,560	983,116
利息の支払額	△34,255	△41,895
社員配当金の支払額	△176,676	△166,720
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△67,371	△63,203
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>743,358</b>	<b>677,135</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
預貯金の純増減額 (△は増加)	△16,421	△9,422
買入金銭債権の取得による支出	△12,400	△5,500
買入金銭債権の売却・償還による収入	14,724	13,261
金銭の信託の増加による支出	△8,300	—
有価証券の取得による支出	△4,509,597	△5,552,359
有価証券の売却・償還による収入	3,962,251	4,243,843
貸付けによる支出	△1,230,885	△1,157,755
貸付金の回収による収入	1,472,996	1,246,619
債券貸借取引支払保証金・受入担保金等の純増減額	159,433	535,699
資産運用活動計	△168,198	△685,613
(営業活動及び資産運用活動計)	(575,159)	(△8,477)
有形固定資産の取得による支出	△20,054	△17,129
有形固定資産の売却による収入	4,278	47
無形固定資産の取得による支出	△33,305	△27,694
その他	△535	△1,082
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△217,816</b>	<b>△731,470</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
社債の発行による収入	106,014	79,460
基金の募集による収入	50,000	50,000
基金の償却による支出	△50,000	△60,000
基金利息の支払額	△1,171	△918
連結の範囲の変更を伴わない子会社及び子法人等の株式の取得による支出	△2,498	—
その他	△524	3,498
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>101,820</b>	<b>72,040</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△72	△1,496
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	627,289	16,207
現金及び現金同等物期首残高	720,180	1,347,470
子会社及び子法人等の会社分割に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△70,580
現金及び現金同等物期末残高	1,347,470	1,293,097

(7) 連結基金等変動計算書

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等				
	基金	基金償却積立金	再評価積立金	連結剰余金	基金等合計
当期首残高	260,000	620,000	452	504,951	1,385,404
当期変動額					
基金の募集	50,000				50,000
社員配当準備金の積立				△185,731	△185,731
基金償却積立金の積立		50,000			50,000
基金利息の支払				△1,171	△1,171
親会社に帰属する当期純剰余				229,579	229,579
基金の償却	△50,000				△50,000
基金償却準備金の取崩				△50,000	△50,000
土地再評価差額金の取崩				290	290
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動				1,216	1,216
基金等以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	50,000	—	△5,816	44,183
当期末残高	260,000	670,000	452	499,135	1,429,588

	その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,583,926	35,881	118,189	△27,485	23,861	2,734,374	3,974	4,123,752
当期変動額								
基金の募集								50,000
社員配当準備金の積立								△185,731
基金償却積立金の積立								50,000
基金利息の支払								△1,171
親会社に帰属する当期純剰余								229,579
基金の償却								△50,000
基金償却準備金の取崩								△50,000
土地再評価差額金の取崩								290
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								1,216
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	△141,701	5,372	△290	△17,491	△24,134	△178,246	△3,268	△181,515
当期変動額合計	△141,701	5,372	△290	△17,491	△24,134	△178,246	△3,268	△137,331
当期末残高	2,442,225	41,253	117,898	△44,976	△273	2,556,127	705	3,986,421

2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等				
	基金	基金償却積立金	再評価積立金	連結剰余金	基金等合計
当期首残高	260,000	670,000	452	499,135	1,429,588
当期変動額					
基金の募集	50,000				50,000
社員配当準備金の積立				△169,630	△169,630
基金償却積立金の積立		60,000			60,000
基金利息の支払				△918	△918
親会社に帰属する当期純剰余				207,848	207,848
基金の償却	△60,000				△60,000
基金償却準備金の取崩				△60,000	△60,000
土地再評価差額金の取崩				△522	△522
基金等以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△10,000	60,000	—	△23,222	26,777
当期末残高	250,000	730,000	452	475,912	1,456,365

	その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,442,225	41,253	117,898	△44,976	△273	2,556,127	705	3,986,421
当期変動額								
基金の募集								50,000
社員配当準備金の積立								△169,630
基金償却積立金の積立								60,000
基金利息の支払								△918
親会社に帰属する当期純剰余								207,848
基金の償却								△60,000
基金償却準備金の取崩								△60,000
土地再評価差額金の取崩								△522
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	△449,222	3,933	522	△4,520	△22,545	△471,831	△4	△471,836
当期変動額合計	△449,222	3,933	522	△4,520	△22,545	△471,831	△4	△445,059
当期末残高	1,993,002	45,187	118,421	△49,497	△22,818	2,084,295	700	3,541,362

連結財務諸表の作成方針

	当連結会計年度 [ 2019年4月1日から 2020年3月31日まで ]
1. 連結の範囲に関する事項	<p>連結される子会社および子法人等数 17社            主要な連結される子会社および子法人等は、明治安田損害保険株式会社、明治安田アセットマネジメント株式会社、明治安田システム・テクノロジー株式会社、Pacific Guardian Life Insurance Company, Limited、StanCorp Financial Group, Inc.、Meiji Yasuda America Incorporatedであります。            主要な非連結の子会社および子法人等は、明治安田ライフプランセンター株式会社であります。            非連結の子会社および子法人等は、総資産、売上高、当期損益および（利益）剰余金の観点からみて、いずれもそれぞれ小規模であり、当企業集団の財政状態と経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除いております。</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の非連結の子会社および子法人等数 0社            (2) 持分法適用の関連法人等数 9社            主要な持分法適用の関連法人等は Founder Meiji Yasuda Life Insurance Co., Ltd.、PT Avrist Assurance、TU Europa S.A.、TUiR Warta S.A.、Thai Life Insurance Public Company Limitedであります。            (3) 持分法を適用していない非連結の子会社および子法人等（明治安田ライフプランセンター株式会社ほか）ならびに関連法人等については、それぞれ連結損益および連結剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。</p>
3. 連結される子会社および子法人等の事業年度等に関する事項	<p>連結される海外の子会社および子法人等の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の決算財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>
4. のれんの償却に関する事項	<p>のれんおよびのれん相当額は、定額法により20年間で償却しております。ただし、重要性が乏しいものについては、発生連結会計年度に全額償却しております。</p>

## 連結貸借対照表の注記

1. 当社の保有する有価証券の評価基準および評価方法は次のとおりであります。

有価証券（現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）の評価は、売買目的有価証券については連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第 21 号）に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式（保険業法第 2 条第 12 項に規定する子会社および保険業法施行令第 13 条の 5 の 2 第 3 項に規定する子法人等のうち子会社を除いたものならびに同条第 4 項に規定する関連法人等が発行する株式をいう）については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるもののうち株式については連結会計年度末前 1 ヶ月の市場価格等の平均、それ以外（信託財産として運用している有価証券を含む）については連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む）については移動平均法による償却原価法（定額法）、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
2. 当社は、個人保険・個人年金保険および団体年金保険に設定した小区分（保険種類・資産運用方針等により設定）に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第 21 号）に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。
3. デリバティブ取引の評価は時価法によっております。
4. 当社は、土地の再評価に関する法律（平成 10 年 3 月 31 日公布法律第 34 号）に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 2000 年 3 月 31 日  
同法律第 3 条第 3 項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令（平成 10 年 3 月 31 日公布政令第 119 号）第 2 条第 1 号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定  
なお、2004 年 1 月 1 日付の合併により安田生命保険相互会社から承継した土地再評価差額金に係る再評価の年月日および方法は次のとおりであります。  
再評価を行った年月日 2001 年 3 月 31 日  
同法律第 3 条第 3 項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令（平成 10 年 3 月 31 日公布政令第 119 号）第 2 条第 1 号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定したほか、第 5 号に定める「鑑定評価」に基づいて算出
5. 当社の保有する有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却の方法は、定率法（ただし、建物については定額法）によっております。連結される海外の子会社および子法人等の有形固定資産の減価償却の方法は、主として定額法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
6. 外貨建資産・負債（子会社株式及び関連会社株式は除く）は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社株式及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。また、連結される海外の子会社および子法人等の資産、負債、収益および費用は、連結される海外の子会社および子法人等の決算日の為替相場により円換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
7. 当社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という）に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は 183 百万円であります。

8. 退職給付に係る負債および資産は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。  
当社の退職給付に係る会計処理の方法は次のとおりであります。

退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数	10年
過去勤務費用の処理年数	10年

9. 当社の偶発損失引当金は、保険業法施行規則第24条の4の規定に基づく引当金であり、貸付金に係るコミットメントライン契約等に関して将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。
10. 当社および連結される国内の保険会社の価格変動準備金は、保険業法第115条の規定により算出した額を計上しております。
11. 当社のヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、主に、貸付金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジおよび通貨スワップによる繰延ヘッジ、外貨建貸付金および外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップによる振当処理を行っております。  
なお、2009年度より保険契約に係る金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップ取引を利用しており、「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 業種別監査委員会報告第26号）に基づき繰延ヘッジ処理を行っております。ヘッジ有効性の評価は、ヘッジ対象とヘッジ手段双方の理論価格の算定に影響を与える金利の状況を検証することにより行っております。
12. 当社の責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。  
(1) 標準責任準備金の対象契約については、内閣総理大臣が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）  
(2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式  
なお、責任準備金には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき積み立てた以下のものが含まれております。  
・1996年4月1日以前に契約締結した個人年金保険契約について、予定利率2.75%を用いて保険料積立金を計算したことにより生じた差額を追加して積み立てることとしたもの（2007年度から3年間にわたる積み立てを完了）。  
なお、年金開始する契約の年金開始後部分は、2010年度以降も年金開始の都度積み立て  
・変額保険契約および1995年9月2日以降に契約締結した一時払養老保険契約を対象として2014年度において積み立てたもの  
・1998年4月2日以降に契約締結した一時払個人年金保険契約を対象として2017年度において積み立てたもの  
一部の連結される海外の保険会社の責任準備金は、米国会計基準に基づき算出した額を計上しております。
13. 当社の消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生連結会計年度に費用処理しております。
14. 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。なお、一部の連結される海外の子会社および子法人等の無形固定資産は、米国会計基準に基づく償却を行っております。
15. 当連結会計年度における金融商品の状況に関する事項および金融商品の時価等に関する事項は、次のとおりであります。  
(1) 金融商品の状況に関する事項  
当社の保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、経済価値で評価した資産と負債の差額であるサープラスを健全性指標の一つとして捉え、サープラスの変動性（リスク）に着目するサープラス・マネジメント型ALMによっております。  
当社は、この方針に基づき、具体的な金融資産として、主に有価証券および貸付金に投資しております。有価証券は、主として債券、株式および投資信託等で保有しており、貸付金は、主に国内の取引先に対する貸付であります。なお、一部の連結される海外の子会社および子法人等が投資する有価証券は、主として債券で保有しており、貸付金は、主に海外の取引先に対する貸付であります。  
また、デリバティブについては、運用資産、保険負債または社債のリスクに対する主要なヘッジ手段と位置付けており、原則として、ヘッジ目的に利用を限定しております。ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、主に、貸付金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジおよび通貨スワップによる繰延ヘッジ、外貨建貸付金および外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップによる振当処理、金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジを行っております。

なお、当社ならびに一部の連結される海外の子会社および子法人等が保有する有価証券は市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスクおよび価格変動リスク等)および信用リスク、貸付金は信用リスクおよび金利の変動リスク、デリバティブ取引は市場リスクおよび信用リスクに晒されております。

当社ならびに一部の連結される海外の子会社および子法人等の社債のうち、外貨建のものは、為替の変動リスクに晒されております。

当社では、金利の変動リスクの管理に関しては、サープラス・マネジメントの観点から、超長期債購入による持続的・安定的な資産デフレーションの長期化および金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジ等により、負債も含めた経済価値ベースの変動リスクを管理しております。為替の変動リスクの管理に関しては、リスク水準の適切なコントロールのため必要に応じ為替予約等を利用し、為替リスクのヘッジを行っております。価格変動リスクを含めた市場リスクの管理に関しては、有価証券やデリバティブ取引について残高および損益状況を一元的に管理しているほか、適宜、限度枠を設定することで損失を一定範囲に収める仕組みを導入しております。

さらに、当社では、VaR手法による最大予想損失額の測定に加えて、通常の予測を超えた急激な市場変動が発生する事態も想定して、ストレステストを定期的に行っております。また、これらの損益状況やルールの遵守状況は、資産運用リスク管理部署が監視し、リスク管理検証委員会に定期的に(緊急時は遅滞なく)報告を行うほか、重要なものは取締役会等に報告しております。

信用リスクの管理にあたっては、個別取引ごとに、リスクを慎重に見極め、安全性が高いと判断される対象に限定して運用を行っております。なお、信用リスク判断が特に重要な企業向け貸付については、審査管理部署において、厳正な審査体制の確保、信用供与先に対するモニタリング、企業審査手法を活用した社内信用格付制度を実施するとともに、重要度の高い案件については、投融资検討会議等で慎重に検討のうえ決裁する体制となっております。また、リスクが特定企業・グループ等に集中することのないよう信用度に応じた与信枠を設定し、管理を行う等運用先の分散を図っております。

デリバティブ取引に関しては、利用方針等を規定化するとともに、取引種類別の残高制限および取引先ごとの与信枠を設定するなどしてリスクを抑制するとともに、取引を執行する部署と事務管理部署を分離し、内部牽制が働く組織体制をとり、適切なリスク管理を行っております。

当社ならびに連結される子会社および子法人等では、金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

当連結会計年度末における主な金融資産および金融負債に係る連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	1,246,447	1,246,447	—
その他有価証券(譲渡性預金)	32,995	32,995	—
買入金銭債権	204,335	217,514	13,179
満期保有目的の債券	192,270	205,449	13,179
その他有価証券	12,064	12,064	—
金銭の信託	15,166	15,166	—
その他有価証券	15,166	15,166	—
有価証券	33,792,528	36,135,945	2,343,417
売買目的有価証券	1,733,941	1,733,941	—
満期保有目的の債券	3,966,078	4,700,997	734,919
責任準備金対応債券	8,923,833	10,532,331	1,608,498
その他有価証券	19,168,675	19,168,675	—
貸付金	4,913,456	5,134,958	221,502
保険約款貸付	233,382	233,382	—
一般貸付	4,680,073	4,901,575	221,502
貸倒引当金(*1)	△5,452	—	—
	4,908,003	5,134,958	226,955
社債	668,563	658,399	△10,164
売現先勘定	73,233	73,233	—
債券貸借取引受入担保金	1,133,523	1,133,523	—
金融派生商品(*2)	25,793	25,793	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	(25,475)	(25,475)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	51,269	51,269	—

(\*1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しております。

(\*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

・資産

①現金及び預貯金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものについては、④有価証券と同様に評価しております。

②買入金銭債権

買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものについては、④有価証券と同様に評価しており、時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引く方法により算定された理論価格または取引相手先から入手した連結会計年度末日の時価等によっております。

③金銭の信託

信託財産として運用している市場価格のある有価証券については、連結会計年度末日の市場価格等によっております。

預金と同様の性格を有する合同運用の金銭信託は短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

④有価証券

その他有価証券のうち市場価格のある国内株式については、連結会計年度末前1ヵ月の市場価格の平均等によっております。上記以外の有価証券については連結会計年度末日の市場価格等によっております。

なお、市場価格がない非上場株式等については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしておらず、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は、230,521百万円であります。また、当連結会計年度において、非上場株式等について287百万円減損処理を行っております。

⑤貸付金

保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込期間および金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

一般貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引いた価格によっております。なお、当社の破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。

・負債

①社債

連結会計年度末日の情報ベンダーが提供する価格等によっております。

②売現先勘定

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

③債券貸借取引受入担保金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

・金融派生商品

①株価指数先物、債券先物等の取引所取引の時価については、連結会計年度末日の終値または清算価格等によっております。

②外国為替予約等の店頭取引の時価については、連結会計年度末日のTTM、WMロイターレート、割引レート等を基準とした理論価格または情報ベンダーが提供する価格によっております。

なお、通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸付金および社債と一体として処理されているため、その時価は、当該貸付金および社債の時価に含めて記載しております。

③金利スワップ取引の時価については、連結会計年度末日の情報ベンダーが提供する価格によっております。

なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸付金と一体として処理されているため、その時価は、当該貸付金の時価に含めて記載しております。

(注2) 保有目的ごとの有価証券に関する注記事項

①売買目的有価証券において、当連結会計年度の損益に含まれた評価差額は△32,957百万円であります。

②満期保有目的の債券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位:百万円)

	種類	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上	①国債・地方債等	3,416,075	4,070,853	654,778

額を超えるもの	②社債	438,346	512,962	74,616
	③その他	288,620	307,556	18,936
	合計	4,143,041	4,891,372	748,331
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	①国債・地方債等	—	—	—
	②社債	2,800	2,798	△1
	③その他	12,506	12,275	△231
	合計	15,306	15,074	△232

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

③責任準備金対応債券の目標デュレーション達成のための当連結会計年度中の売却額は285,843百万円であり、売却益の合計額は12,913百万円、売却損の合計額は25百万円であります。信用状態の著しい悪化による当連結会計年度中の売却額は1,128百万円、売却損は104百万円であります。また、責任準備金対応債券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	①国債・地方債等	7,474,934	9,023,047	1,548,113
	②社債	17,156	21,193	4,037
	③その他	678,166	746,731	68,565
	合計	8,170,256	9,790,973	1,620,716
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	①国債・地方債等	643,382	634,664	△ 8,717
	②社債	1,853	1,829	△ 24
	③その他	108,340	104,864	△ 3,476
	合計	753,576	741,358	△ 12,218

④その他有価証券の当連結会計年度中の売却額は383,871百万円であり、売却益の合計額は7,572百万円、売却損の合計額は6,854百万円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、連結貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	取得原価 または 償却原価	連結貸借対照表計上額	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	(1)株式	1,188,129	2,991,591	1,803,462
	(2)債券	4,679,713	5,044,576	364,862
	①国債・地方債等	3,068,475	3,356,362	287,886
	②社債	1,611,238	1,688,213	76,975
	(3)その他	8,441,204	9,175,518	734,313
	合計	14,309,047	17,211,685	2,902,637
連結貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	(1)株式	410,410	363,092	△ 47,317
	(2)債券	217,042	213,582	△ 3,460
	①国債・地方債等	24,226	24,038	△ 188
	②社債	192,816	189,544	△ 3,271
	(3)その他	1,534,974	1,440,542	△ 94,432
	合計	2,162,427	2,017,217	△ 145,209

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

⑤上記の表中にある「取得原価または償却原価」は減損処理後の帳簿価額であります。当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式等について87,915百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預貯金	1,246,351	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	204,335
金銭の信託	1,200	—	—	—	—	—
貸付金(*)	403,449	743,755	646,028	629,480	801,957	1,454,718
有価証券	954,351	2,644,935	1,708,658	1,602,203	4,348,451	15,815,896
満期保有目的の債券	183,178	369,534	412,282	625,102	275,617	2,097,563

責任準備金対応債券	7,404	111,669	12,556	79,308	1,407,162	7,305,731
その他有価証券のうち満期があるもの	763,768	2,163,731	1,283,819	897,792	2,665,671	6,412,602
合計	2,605,352	3,388,691	2,354,686	2,231,684	5,150,408	17,474,950

(\*) 貸付金のうち、破産更生債権等、償還予定額が見込めない684百万円は含めておりません。

(\*) 貸付金のうち、保険約款貸付については、償還期限がないので含めておりません。

(注4) 社債、売現先勘定および債券貸借取引受入担保金の決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
社債	—	27,828	—	—	—	640,735
売現先勘定	73,233	—	—	—	—	—
債券貸借取引受入 担保金	1,133,523	—	—	—	—	—
合計	1,206,757	27,828	—	—	—	640,735

16. 当社ならびに一部の連結される子会社および子法人等では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当連結会計年度末における当該賃貸等不動産の連結貸借対照表価額は577,696百万円、時価は837,523百万円であります。なお、時価の算定にあたっては、主として不動産鑑定士による鑑定評価（指標等を用いて調整を行ったものを含む）によっております。

17. 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権の額は、24,182百万円であります。なお、それぞれの内訳は以下のとおりであります。

貸付金のうち、破綻先債権額は26百万円であります。また、延滞債権額は5,574百万円であります。

上記取立不能見込額の直接減額は、破綻先債権額161百万円、延滞債権額22百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

貸付金のうち、3ヵ月以上延滞債権額はありませぬ。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものであります。

貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は18,581百万円であります。

なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。

18. 有形固定資産の減価償却累計額は、465,710百万円であります。

19. 一部の連結される海外の子会社および子法人等が資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額は次のとおりであります。

貸付金 701百万円

20. 保険業法第118条第1項の規定による特別勘定の資産の額は、810,928百万円であります。

なお、同勘定の負債の額も同額であります。

21. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

当連結会計年度期首現在高	242,957百万円
前連結会計年度連結剰余金よりの繰入額	169,630百万円
当連結会計年度社員配当金支払額	166,720百万円
利息による増加等	121百万円
当連結会計年度末現在高	245,988百万円

22. 保険業法第60条の規定により基金を50,000百万円新たに募集いたしました。

23. 基金を60,000百万円償却したことに伴い、同額を保険業法第56条の規定による基金償却積立金へ振り替えております。

24. 担保に供されている資産の額は、有価証券 30,957 百万円、貸付金 113,200 百万円であります。
25. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券（現金担保付債券貸借取引による有価証券を含む）の連結貸借対照表価額は 2,762,898 百万円、売現先取引により買戻し条件付で売却した有価証券の連結貸借対照表価額は 75,520 百万円であります。
26. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は、107,007 百万円であります。
27. 負債の部の社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債および外貨建劣後特約付社債 640,735 百万円を含んでおります。
28. 保険業法第 259 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当連結会計年度末における今後の負担見積額は 47,627 百万円であります。  
なお、当該負担金は拠出した連結会計年度の事業費として処理しております。

29. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

一部の連結される海外の子会社および子法人等は、確定給付制度および確定拠出制度を設けております。

なお、一部の連結される子会社および子法人等は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 確定給付制度

①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	337,440 百万円
勤務費用	9,679 百万円
利息費用	4,955 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	11,106 百万円
退職給付の支払額	△20,570 百万円
過去勤務費用の当期発生額	△9,764 百万円
その他	△771 百万円
期末における退職給付債務	332,076 百万円

②年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	422,433 百万円
期待運用収益	7,455 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△31,759 百万円
事業主からの拠出額	2,344 百万円
退職給付の支払額	△9,849 百万円
その他	△747 百万円
期末における年金資産	389,876 百万円

③退職給付債務および年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	323,182 百万円
年金資産	△389,876 百万円
	△66,693 百万円
非積立型制度の退職給付債務	8,893 百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△57,799 百万円
退職給付に係る負債	8,229 百万円
退職給付に係る資産	△66,029 百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△57,799 百万円

④退職給付に関連する損益

勤務費用	9,679 百万円
利息費用	4,955 百万円
期待運用収益	△7,455 百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	4,134 百万円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△1,806 百万円
その他	110 百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	9,617 百万円

⑤その他の包括利益等に計上された項目の内訳

その他の包括利益に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

数理計算上の差異	△38,724 百万円
過去勤務費用	7,957 百万円

合計	△30,767 百万円
その他の包括利益累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。	
未認識数理計算上の差異	△41,676 百万円
未認識過去勤務費用	10,551 百万円
合計	△31,125 百万円

⑥年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

債券	7.2%
株式	25.6%
生命保険一般勘定	32.9%
共同運用資産	24.8%
投資信託	2.1%
現金及び預金	1.7%
その他	5.7%
合計	100.0%

年金資産合計には、退職給付信託が 40.8%含まれております。

⑦長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑧数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における当社ならびに一部の連結される海外の子会社および子法人等の主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

割引率	
国内	0.9%
海外	3.3～3.4%
長期期待運用収益率	
国内	
確定給付企業年金	2.0%
退職給付信託	0.0%
海外	3.7～7.3%

(3) 確定拠出制度

当社ならびに連結される子会社および子法人等の確定拠出制度への要拠出額は、3,954 百万円であります。

30. 非連結の子会社および子法人等ならびに関連法人等の株式等は、185,278 百万円であります。

31. 繰延税金資産の総額は、815,988 百万円、繰延税金負債の総額は、860,113 百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、9,576 百万円であります。

繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金 451,356 百万円および価格変動準備金 232,952 百万円です。

繰延税金負債の発生の主なものは、その他有価証券の評価差額 745,115 百万円です。

当連結会計年度における法定実効税率は 27.96%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主な内訳は、社員配当準備金に係る△16.98%です。

## 連結損益計算書の注記

1. 当連結会計期間における減損損失に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 資産のグルーピング方法

当社ならびに一部の連結される子会社および子法人等は、保険事業等の用に供している不動産等については、保険事業等ごとに1つの資産グループとしております。また、保険事業等の用に供していない賃貸不動産等および遊休不動産等については、それぞれの物件ごとに1つの資産グループとしております。

(2) 減損損失の認識に至った経緯

一部の資産グループに著しい収益性の低下または時価の下落が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

用途	件数	減 損 損 失 (百万円)		
		土 地	建 物 等	計
賃貸不動産等	1 件	565	906	1,471
遊休不動産等	9 件	98	858	957
合 計	10 件	663	1,764	2,428

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、賃貸不動産等については物件により使用価値または正味売却価額を、遊休不動産等については正味売却価額を適用しております。なお、使用価値については主に見積乖離リスクを反映させた将来キャッシュ・フローを1.89%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額については不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額等から処分費用見込額を差し引いた価額、または公示価格等を基準にした評価額等をもとに算定しております。

## 連結包括利益計算書の注記

### 1. その他の包括利益の内訳

#### その他有価証券評価差額金

当期発生額	△680,854 百万円
組替調整額	47,436 百万円
税効果調整前	△633,417 百万円
税効果額	181,325 百万円
その他有価証券評価差額金	△452,092 百万円

#### 繰延ヘッジ損益

当期発生額	9,576 百万円
組替調整額	△4,115 百万円
税効果調整前	5,460 百万円
税効果額	△1,526 百万円
繰延ヘッジ損益	3,933 百万円

#### 為替換算調整勘定

当期発生額	△8,446 百万円
組替調整額	—
税効果調整前	△8,446 百万円
税効果額	—
為替換算調整勘定	△8,446 百万円

#### 退職給付に係る調整額

当期発生額	△30,316 百万円
組替調整額	△450 百万円
税効果調整前	△30,767 百万円
税効果額	8,222 百万円
退職給付に係る調整額	△22,545 百万円

#### 持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	7,400 百万円
組替調整額	△604 百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	6,795 百万円
その他の包括利益合計	△472,354 百万円

## 連結キャッシュ・フロー計算書の注記

1. 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。
2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上に記載されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

現金及び預貯金	1,246,447百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△44,926百万円
コールローン	90,000百万円
信託期間が3ヵ月以内の金銭の信託	1,200百万円
取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する有価証券	377百万円
<hr/>	
現金及び現金同等物	1,293,097百万円

## (8) リスク管理債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	2018年度末	2019年度末
破綻先債権額	—	26
延滞債権額	4,265	5,574
3ヵ月以上延滞債権額	—	—
貸付条件緩和債権額	21,668	18,581
合 計	25,934	24,182
(貸付残高に対する比率)	(0.52)	(0.49)

- (注) 1. 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる金額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しています。その金額は、2018年度末が破綻先債権額 91 百万円、延滞債権額 1 百万円、2019年度末が破綻先債権額 161 百万円、延滞債権額 22 百万円です。
2. 破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（未収利息不計上貸付金）のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、または手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
3. 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸付金です。
4. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
5. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

(9) 保険会社およびその子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況

(連結ソルベンシー・マージン比率)

(単位：百万円)

項目	2018年度末	2019年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	7,305,541	6,979,863
基金等	889,822	962,753
価格変動準備金	816,962	833,615
危険準備金	710,739	787,671
異常危険準備金	10,556	11,076
一般貸倒引当金	1,091	1,490
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	3,048,988	2,485,574
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	406,485	468,827
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△424	△31,154
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	909,388	870,776
負債性資本調達手段等	560,735	640,735
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	△156,581	△163,332
その他	107,777	111,829
リスクの合計額	1,404,686	1,220,582
$\sqrt{(\sqrt{R_1^2 + R_5^2 + R_8 + R_9})^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2 + R_4 + R_6}$ (B)		
保険リスク相当額 R <sub>1</sub>	162,499	164,223
一般保険リスク相当額 R <sub>5</sub>	1,763	1,795
巨大災害リスク相当額 R <sub>6</sub>	465	482
第三分野保険の保険リスク相当額 R <sub>8</sub>	69,535	74,522
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R <sub>9</sub>	—	—
予定利率リスク相当額 R <sub>2</sub>	146,477	141,082
最低保証リスク相当額 R <sub>7</sub>	11,035	7,345
資産運用リスク相当額 R <sub>3</sub>	1,195,209	1,019,337
経営管理リスク相当額 R <sub>4</sub>	31,739	28,175
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,040.1%	1,143.6%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条の2および第88条ならびに平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。

2. 「最低保証リスク相当額」は、平成23年金融庁告示第23号第4条第5項に規定する標準的方式に基づいて算出しています。

## (10) 子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況（ソルベンシー・マージン比率）

明治安田損害保険株式会社

(単位：百万円)

項 目	2018年度末	2019年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	72,007	37,521
資本金等	58,033	23,413
価格変動準備金	617	682
危険準備金	25	28
異常危険準備金	10,556	11,076
一般貸倒引当金	—	—
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	995	224
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	1,178	1,347
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	601	748
リスクの合計額 $\sqrt{(R1+R2)^2+(R3+R4)^2} + R5+R6$ (B)	2,747	2,536
一般保険リスク (R1)	1,763	1,795
第三分野保険の保険リスク (R2)	—	—
予定利率リスク (R3)	5	5
資産運用リスク (R4)	1,327	856
経営管理リスク (R5)	71	62
巨大災害リスク (R6)	465	482
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	5,241.6%	2,958.0%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条および第87条ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

## (11) セグメント情報

当社および連結される子会社および子法人等は、生命保険事業以外に損害保険事業等を営んでいますが、損害保険事業等の全セグメントに占める割合が僅少であり、生命保険事業の単一セグメントとみなせるため、セグメント情報の記載を省略しています。